

大草丘陵古墳群出土遺物について

－大草丘陵古墳群の調査(2)－

大 谷 晃 二・吉 松 優 希

考古基礎資料調査研究（墓制調査）

は じ め に

島根県古代文化センターと島根県教育庁埋蔵文化財調査センターでは考古資料を基に地域特性や地域形成の過程や変遷を考察することを目的に調査研究事業「考古基礎資料調査研究事業」を行っている。

その研究事業の1つに「墓制調査」があり、これまでもその成果を公表してきた。本稿は平成27年度から行っている松江市大草町・八雲町に所在する大草丘陵古墳群の調査成果を報告する。また、島根県立松江北高等学校に所蔵されていた大草丘陵古墳群出土遺物が令和2年3月に今後の保存・活用に資するため、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターに移管された。今後の活用、調査研究に資するため、これらの遺物についても報告する。

1 体制・経過

【客員研究員】（五十音順）

岩本 崇（島根大学法文学部准教授）、大谷晃二（島根県立三刀屋高等学校教諭）、大橋泰夫（島根大学法文学部教授）、村田裕一（山口大学人文学部准教授）、吉田 広（愛媛大学ミュージアム教授）

【事務局】

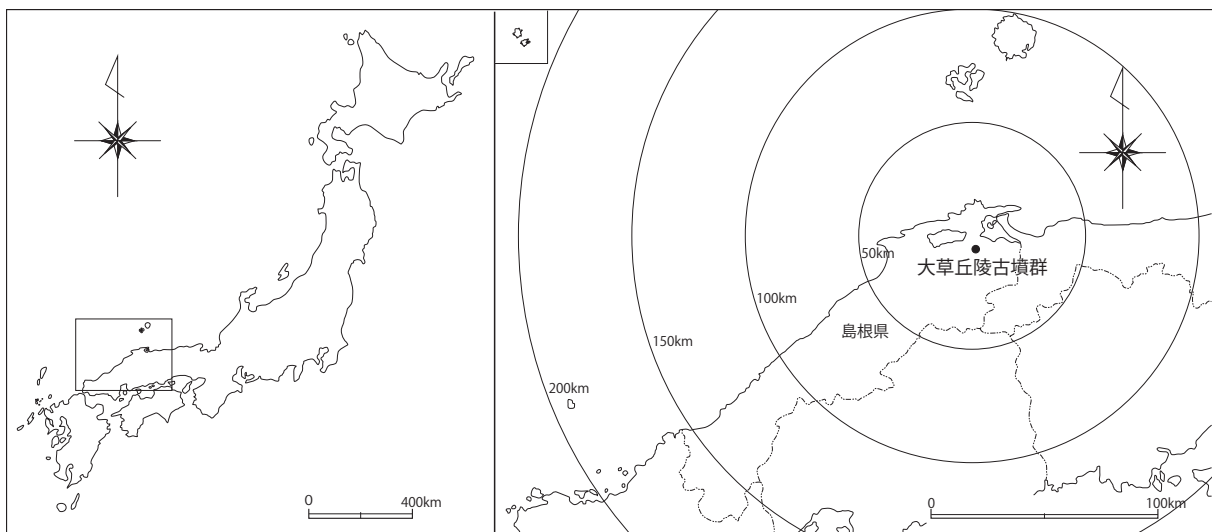
令和3年度

中島正顕（文化財課長）、角田徳幸（古代文化センター長）、椿 真治（埋蔵文化財調査センター所長）、坂根祐二（同総務課長）

【調査担当者】

令和3年度

（古代文化センター）松尾充晶、東森 晋、廣江耕史



第1図 大草丘陵古墳群の位置

第1表 東百塚山古墳群一覧表（規模の単位はm）

No.	墳形	平面規模	高さ	表採・出土遺物・時期	古墳の時期	文献
1	号墳	方墳	18.4×17.8	3.6	根県発掘。蓋形・円筒埴輪	埴輪Ⅳ期 大谷1996
2	号墳	方墳	12.6×11.6	3.0	朝顔・円筒埴輪片	出雲1・2期 大谷2012
3	号墳	方墳	10.9×9.1	1.1		
4	号墳	方墳	6.3×5.1	0.7		
5	号墳	方墳	7.5×6.1	0.9		
6	号墳	方墳	15×14.2	2.0		
7	号墳	円墳	5	0.5		
8	号墳	方墳	12.7×12.4	2.0	土師器	
9	号墳	方墳	5.8×5.5	1.0		
10	号墳	欠番				
11	号墳	方墳	11.8×11.7	2.8	円筒埴輪、須恵器甕	出雲1・2期
12	号墳	方墳	5.4×5.4	1.5		
13	号墳	方墳	8.1×7	1.6		
14	号墳	方墳	6.5×5	1.1		
15	号墳	方墳	5.9×5.2	1.4		
16	号墳	方墳	4.9×4.7	1.3		
17	号墳	方墳	6.2×6	1.4		
18	号墳	方墳	13.7×13.5	2.9	円筒埴輪	
19	号墳	方墳	8.2×7.8	2.0		
20	号墓	四隅	15.5×11	1.2	県発掘。貼石。吉備系特殊器台、鼓形器台、須恵器甕片	弥生後期 岩橋2018
21	号墳	方墳	5.3×4.7	1.0		
22	号墳	方墳	8.4×8.3	1.5		
23	号墳	方墳	8.9×8.2	2.3		
24	号墳	方墳	6.9×5.1	1.6		
25	号墳	方墳	8.3×8	2.5		
26	号墳	方墳	6.5×6.1	2.4		
27	号墳	方墳	8.9×8.2	2.7		
28	号墳	方墳	6.8×6	1.0		
29	号墳	方墳	6.8×6.6	1.7		
30	号墳	方墳	9.7×8.8	2.1		
31	号墳	方墳	10.5×8.7	2.2		
32	号墳	方墳	7.8×7.6	2.0		
33	号墳	方墳	17×13	1.3		
34	号墳	方墳	4.1×4	1.1		
35	号墳	方墳	7.3×6.7	2.0		
36	号墳	方墳	6.7×5.4	1.7		
37	号墳	方墳	9×8.9	2.8		
38	号墳	方墳	7.7×6.8	1.3		
39	号墳	円墳	16	1.3	須恵器甕、隣接の鉄塔から土師器大壺（古墳前期）、円筒埴輪片（埴輪Ⅳ期）	大谷1996
40	号墳	方墳	10.7×9.1	2.2	円筒埴輪	出雲1・2期
41	号墳	方墳	10×8	0.9		
42	号墳	方墳	7.8×7	1.4	土師器	
43	号墳	方墳	7.7×7.5	0.7		
44	号墳	方墳	10.5×9.6	2.3	埴輪片	
45	号墳	方墳	7.2×5.7	1.3		
46	号墳	方墳	6.6×6.4	1.5		
47	号墳	方墳	9.2×7.9	1.4		
48	号墳	方墳	7.2×7	1.7	半壊	
49	号墳	方墳	8×7	1.3	半壊	
50	号墳	方墳	7.5×6.4	0.8		
51	号墳	方墳	9.4×8.1	0.9		
52	号墳	方墳	5.2×3.9	0.5		
53	号墳	方墳	7.3×6	1.0		
54	号墳	方墳	9×9	1.0		
55	号墳	方墳	7.1×6.8	2.1		
56	号墳	方墳	8×8.5	2.0		
57	号墳	方墳	9×8	2.0	弥生土器壺底部か鼓形器台片	
58	号墳	方墳	8.1×7.9	1.3	開墾で平らになる。	
59	号墳	方墳	4.4×4.2	0.8		
60	号墳	方墳	10×8	1.3		
61	号墳	方墳	7.4×5.2	1.6		
62	号墳	方墳	16×15	2.1	土師器壺	古墳前期
63	号墳	方墳	12.3×7	0.8	県発掘。須恵器高坏小片。	岩橋2018
64	号墳	方墳	11.5×11.5	1.6	県発掘。須恵器甕・高坏、土師器高坏	出雲1期（TK208～TK23） 岩橋2018
65	号墳	方墳	7×7	1.0		
66	号墳	方墳	6.5×6.5	0.5	須恵器壺	
67	号墳	方墳	9.1×8.9	1.8		
68	号墳	方墳	9×7.5	2.2		
69	号墳	方墳	7.7×7	1.6		
70	号墳	方墳	4.5×4.3	0.4		
71	号墳	円墳	15.3×14.5	3.6	県発掘。須恵器高坏、円筒・朝顔形埴輪、弥生土器、伝U字形鋤先	出雲1期（TK208～47） 山本1975、松江教育委員会1991、大谷2012、岩橋2018
72	号墳	円墳	15	1.5		

No.	墳形	平面規模	高さ	表採・出土遺物・時期	古墳の時期	文献
74	号墳	方墳	10.6×9	2.8	埴輪片	
75	号墳	方墳	10×7.2	2.0		
76	号墳	方墳	7.6×7.4	2.0		
77	号墳	方墳	7×6.3	1.3		
78	号墳	方墳	7.7×7.2	1.0		
79	号墳	方墳	6.9×5.7	1.0		
80	号墳	方墳	8.2×7.8	1.6		
81	号墳	方墳	8.7×8.4	1.8		
82	号墳	方墳	9.7×7	0.9		
83	号墳	方墳	7.6×6.5	1.4		
84	号墳	方墳	15×12.5	2.0		
85	号墳	方墳	4.6×4.6	2.0		
86	号墳	方墳	10.4×10.4	3.1	円筒埴輪、須恵器甕	出雲2期
87	号墳	方墳	3.7×3.5	0.9	須恵器甕	
88	号墳	方墳	6×5.8	1.7	土師器甕	
89	号墳	方墳	10.2×10	2.5		
90	号墳	方墳	13.4×12.2	2.7		
91	号墳	方墳	墳長13	3.0		
92	号墳	方墳	7.2×7.2	1.9		
93	号墳	方墳	4.1×3.3	0.7		
94	号墳	方墳	9.6×6	1.5	Y-4号横穴墓の後背墳丘	
95	号墳	方墳	9×5	1.5		
96	号墳	方墳	9.5×9.5	2.0		
97	号墳	方墳	6.5×6	1.1		
98	号墳	方墳	9.1×6.5	1.6	円筒埴輪	
99	号墳	方墳	10.4×8.7	2.4		
100	号墳	方墳	11.3×8.8	2.0		
101	号墳	方墳	6×6	1.4		
102	号墳	方墳	14.7×11.7	1.9		
103	号墳	方墳	7.2×7	1.3		
104	号墳	方墳	7×4.8	1.1		
105	号墳	方墳	7.3×6.9	0.9		
106	号墳	方墳	8×10	1.7		
107	号墳	方墳	8.8×6.8	2.5		
108	号墳	方墳	7×6.5	2.0	須恵器蓋坏	出雲2期（TK10） 大谷2012
109	号墳	方墳	6×7.5	1.0	土師器	
110	号墳	方墳	7×8	1.0		
111	号墳	方墳	7.5×8.5	1.0	円筒埴輪	
112	号墳	方墳	7×10	1.5		
113	号墳	方墳	8×6.5	1.8		
114	号墳	方墳	3.5×4	1.0		
115	号墳	方墳	4.5×4.5	1.0		
116	号墳	方墳	6.5×7	1.0		
117	号墳	方墳	8.2×5.8	1.1		
118	号墳	方墳	4.5×3.5	0.8		
119	号墳	方墳	11×2以上	0.8		
120	号墳	方墳	8×7	1.8		
121	号墳	方墳	8×9.5	2.0		
122	号墳	方墳	5.5×7	1.5		
123	号墳	方墳	6×7	1.8		
124	号墳	方墳	6×8	2.3	周辺南東部で須恵器（長頸壺）	
125	号墳	方墳	7×7	1.3	須恵器大甕	
126	号墳	方墳	7×8	1.5		
127	号墳	方墳	5×5	1.0		
128	号墳	方墳	(5.5×6.5)	1.3	Y-1号横穴墓の後背墳丘	
129	号墳	方墳	6.5×6.5	1.5		岩橋2018
130	号墳	方墳	5×4.5	1.3		岩橋2018
131	号墳	方墳	6.4×4.5	1.5		岩橋2018
132	号墳	方墳	4×4	1.0		岩橋2018
133	号墳	方墳	5.5×4.5	1.3		岩橋2018
134	号墳	方墳	6.5×4.5	1.5		岩橋2018
135	号墳	方墳	9×6	1.3		岩橋2018
136	号墳	方墳	6×5.5	2.5		岩橋2018
137	号墳	方墳	13.5×11	3.0		岩橋2018
138	号墳	方墳	7×6.5	1.5		岩橋2018
139	号墳	方墳	5.5×3.5	1.0		岩橋2018
140	号墳	方墳	10×9	1.8		岩橋2018
141	号墳	方墳	墳長25	2.0		岩橋2018

第2表 東百塚山横穴墓群

No.	墳丘	墳丘規模【m】	高さ【m】
Y-1	号横穴墓 128号墳・方墳	(5.5×6.5)	1.3
Y-2	号横穴墓		
Y-3	号横穴墓		
Y-4	号横穴墓 94号墳・方墳	9.6×6	1.5

第3表 西百塚山古墳群一覧表（規模の単位はm）

No	墳形	平面規模	高さ	表採・出土遺物・時期	古墳の時期	文献
1	号墳	方墳				
2	号墳	方墳		松江高校発掘。朝顔・円筒埴輪列。周辺で須恵器甕。	出雲1・2期	松江北高校古学部1961
3	号墳	方墳		円筒埴輪	出雲1・2期	
4	号墳	方墳				
5	号墳	方墳				
6	号墳	前方後方墳？				
7	号墳	方墳		円筒埴輪	出雲1・2期	
8	号墳	方墳				
9	号墳	方墳		横穴墓の後背墳丘か		
10	号墳	方墳		横穴墓の後背墳丘か		
11	号墳	方墳				
12	号墳	方墳				
13	号墳	方墳				
14	号墳	方墳				
15	号墳	方墳				
16	号墳	方墳				
17	号墳	方墳	6.5 × 5.5	1.0	埴輪片	
18	号墳	方墳	12 × 11	1.3		
19	号墳	円墳	46 ~ 44	4.5	2018 ~ 2019年島根県発掘。朝顔形・円筒埴輪、土師器甕、須恵器（7・8世紀）	吉松・守岡2021
20	号墳	前方後円・墳	墳長 12.0	2.0	須恵器坏蓋・甕	出雲1期後半(MT15)
21	号墳	方墳				松江北高校歴史愛好会2017
22	号墳	方墳				
23	号墳	方墳				
24	号墳	方墳				
25	号墳	前方後方墳？				
26	号墳	方墳				
27	号墳	方墳				
28	号墳	方墳				
29	号墳	方墳				
30	号墳	方墳	8.5 × 8	1.5		
31	号墳	方墳				
32	号墳	方墳				
33	号墳	方墳				
34	号墳	方墳				
35	号墳	方墳				

No	墳形	平面規模	高さ	表採・出土遺物・時期	古墳の時期	文献
36	号墳	方墳				
37	号墳	方墳				
38	号墳	方墳				
39	号墳	方墳				
40	号墳	方墳				
41	号墳	方墳				
42	号墳	方墳				
43	号墳	方墳				
44	号墳	方墳				
45	号墳	方墳				
46	号墳	方墳				
47	号墳	方墳				
48	号墳	方墳				
49	号墳	方墳				
50	号墳	方墳				
51	号墳	方墳				
52	号墳	方墳				
53	号墳	方墳				
54	号墳	方墳				
55	号墳	方墳	6 × 6	0.3	上面削平されている。	
56	号墳	方墳	8 × 8	1.8	円筒埴輪、須恵器器台	出雲1・2期
57	号墳	前方後円墳	墳長 30	2.5		松江北高校歴史愛好会2019
58	号墳	方墳	9.5 × 9.5	2.5		
59	号墳	方墳	8 × 7	1.8		
60	号墳	方墳	(10 × 14)	1.0	円筒埴輪	出雲1・2期
61	号墳	方墳	11 × 10	1.3	土師器壺・甕	
62	号墳	方墳			円筒埴輪、近くで弥生土器	
63	号墳	方墳	8 × 5	1.0		
64	号墳	方墳	10 × 9.5	2.5		
65	号墳	方墳	10 × 9	1.3		
66	号墳	円墳	(13)	1.3		
67	号墳	前方後方墳	墳長 20.5	3.8	円筒埴輪	
68	号墳	方墳	9.5 × 4.5	0.8		
69	号墳	方墳	5 × 5	1.0		

（埋蔵文化財調査センター）岩橋孝典、仁木 聡、伊藤 智、岩崎孝平、鈴木七奈、吉松優希

【調査協力者】

内田律雄、曳野律夫、松本岩雄、島根県立松江北高等学校歴史愛好会

2 分布調査

（1）古墳と横穴墓

大草丘陵古墳群の分布調査は、平成27年度～平成30年度の4カ年実施し、その概要は『古代文化研究』第29号（以下、前号）で示した（吉松・守岡2021）。令和3年度は、前回掲載することができなかった古墳の一覧表の作成、また、一覧表整理のために一部再踏査を実施した。踏査は、令和3年5月10日と11月17日に行った。

踏査結果を示したのが第4表～第7表と第3図である。前回の分布図から加除したものと踏査により墳形を変更したものもあり、今回提示したものを正式な大草丘陵古墳群の分布図としたい。また、一覧表については、古墳のみ規模や墳形を示したが、横穴墓についてはいずれも玄室規模を計測するには至っていないことや倒木痕跡などを横穴墓のくぼみと誤認している可能性もあることから、規模は示していない。古墳や横穴墓に付した番号などは前号で示したとおりである^①。また、周辺環境等の詳細は前号で詳細を示しているので、今回は前号以降の踏査で変更した点や新たに確認した古墳や横穴墓などを中心に示すこととした。

西百塚山古墳群は、本庄考古学研究室や松江北高等学校の踏査や測量調査で69基の古墳が知られている。今回の分布調査により、新たに10基の古墳を確認した。このうちK112は全長18.4mの前方後円墳である。また、K114は不整形墳であるが、周辺の斜面から須恵器甕や埴輪が採集された。Y126の後背墳丘と考えられる。横穴墓（可能性のあるものも含む）は37基確認した。

才光寺古墳群では、24基の古墳が所在している。古墳の多くは方墳であるが、K124は全長12.8mの前方後円墳

第4表 西百塚山古墳群新発見古墳

西百塚山古墳群	墳形	規模【m】	備考
K101	方墳	4×3.6、高さ0.5	
K102	方墳	6.5×5、高さ0.4	
K103	方墳	5×4、高さ0.3	
K104	?	古墳?	
K105	?	古墳?	
K106	方墳	9.4×7.3、高さ3	
K107	方墳	3×3.5、高さ0.7	
K108	方墳	3.8×3.5、高さ1	
K109	方墳	古墳?	
K110	方墳	4.5×3.5、高さ1.2	
K111	?	古墳?	
K112	前方後円墳	全長18.4、前方部長7.8、幅5.7、高さ1.35、後円部径10.6、高さ1	
K113	方墳	4.5×6.8、高さ1.45	
K114	不整形	9.8×8.3、高さ1.0	Y126ほか後背墳丘?、須恵器甕、埴輪

第6表 才光寺古墳群新発見古墳一覧表

才光寺古墳群	墳形	規模【m】	備考
K101	方形	10×9	山城?方形
K102	方形	11×13	山城?方形
K103	方形	13×14	山城?方形
K104	方墳	5×7.5、高さ0.95	
K105	方墳	6.5×6、高さ0.95	
K106	方墳	9.7×9.8、高さ2	
K107	円墳	11.7×13.4、高さ1.6	
K108	円墳?	径11 (7.5×9)、高さ1	古墳⑤と同じ。円墳?
K109	方墳	11×11、高さ1.5	
K110	方墳	12×13、高さ2	
K111	方墳	8×7.5、高さ1	石室片あり
K112	方墳	7×6.5	盗掘坑あり
K113	円墳	径12、高さ2	横穴式石室、盗掘
K114	方墳	5×6、高さ0.4	
K115	方墳	6×6、高さ0.3	
K116	方墳	11×8、高さ0.5	
K117	方墳	8.5×9.5、高さ2	
K118	方墳	9.5×10、高さ2.5	
K119	方墳	9.5×8.5、高さ2.5	
K120	方墳	11×11、高さ2	
K121	方墳	12×16、高さ1.5	
K122	方墳	5×8、高さ1.5	
K123	方墳	6.5×7.5、高さ1	
K124	前方後円墳	全長12.8、前方部長6.8、幅6.2、高さ1.5、後円部径6、高さ1.2	
K125	橢円墳	4×4.2、高さ0.3	
K126	円墳	6×5.5、高さ0.5	
K127	橢円墳	4.5×3、高さ1	
K128	橢円墳	4.2×4、高さ0.6	
K129	橢円墳	2.8×4、高さ0.5	
K130	橢円墳	4.5×3.8、高さ0.9	
K131	橢円墳	5.5×6、高さ1.6	
K132	円墳	7.6×11.5、高さ1.2	
K133	円墳	7×9、高さ1.4	
K134	円墳	6.3×9、高さ1	
K135	方墳?	11×11、高さ1.4	
K136	方墳?	9.5×8.2、高さ1.2	

第5表 西百塚山古墳群新発見横穴墓一覧表

西百塚山横穴墓群	備考	西百塚山横穴墓群	備考
Y101	周知	Y120	
Y102	周知	Y121	
Y103	周知	Y122	
Y104	開口	Y123	
Y105	開口	Y124	
Y106		Y125	
Y107	開口	Y126	開口、K114後背墳丘?
Y108	周知	Y127	開口
Y109	周知	Y128	開口
Y110		Y129	開口
Y111	周知	Y130	
Y112	周知	Y131	
Y113		Y132	
Y114		Y133	
Y115		Y134	
Y116		Y135	
Y117		Y136	
Y118		Y137	Y126の北で新発見
Y119			

第7表 才光寺古墳群新発見横穴墓一覧表

西百塚山横穴墓群	備考	西百塚山横穴墓群	備考
Y101	周知	Y120	
Y102	周知	Y121	
Y103	周知	Y122	
Y104	開口	Y123	
Y105	開口	Y124	
Y106		Y125	
Y107	開口	Y126	開口、K114後背墳丘?
Y108	周知	Y127	開口
Y109	周知	Y128	開口
Y110		Y129	開口
Y111	周知	Y130	
Y112	周知	Y131	
Y113		Y132	
Y114		Y133	
Y115		Y134	
Y116		Y135	
Y117		Y136	
Y118		Y137	Y126の北で新発見
Y119			

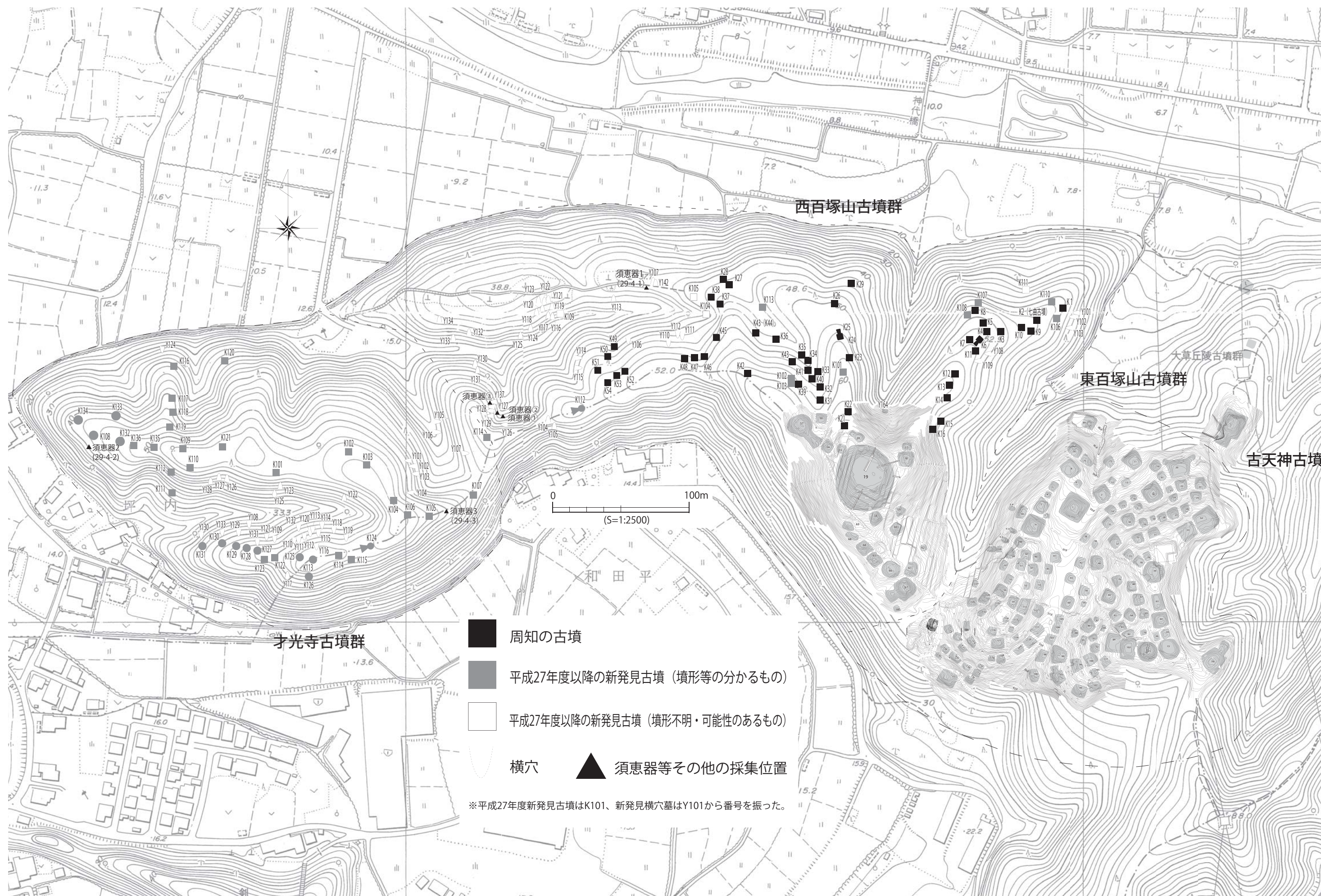


第2図 才光寺古墳群K113横穴式石室（正面が奥壁）

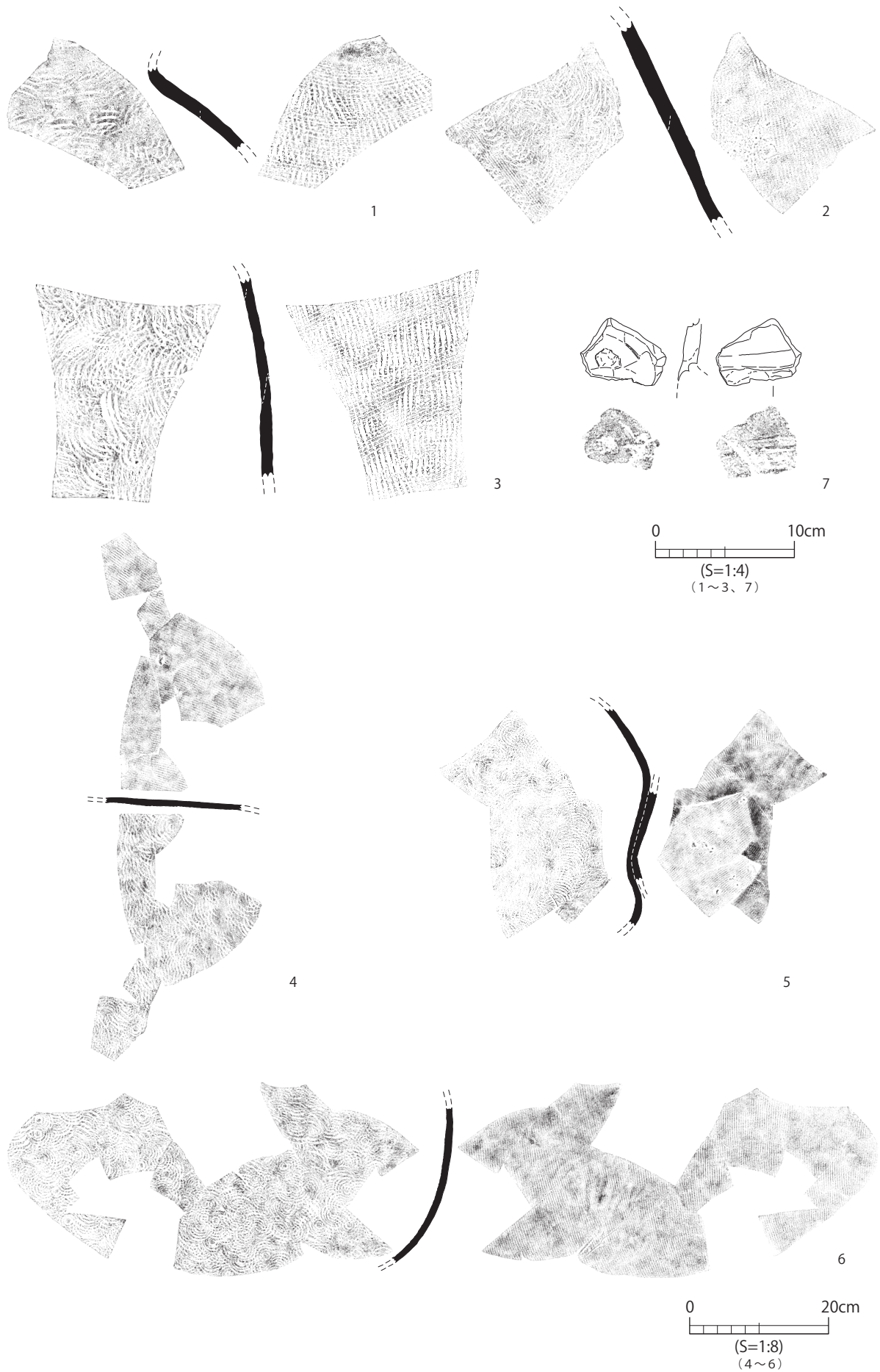
である。K113は径12mの円墳で、天井石を失っているものの、奥壁、側壁が残存する横穴式石室であることが確認できた。規模は奥壁幅約1.9m、玄室長2m以上で、高さ1m以上で東向きに開口する。10～20×30cm程度の自然石・割石を多段積みにし、やや古手の様相であり、出雲地域の横穴式石室を考える上で注目される。横穴墓は32基確認された。

(2) 表採遺物

第4図は、分布調査中に西百塚山古墳群K114の斜面部で表採した須恵器、埴輪である。1～6は須恵器である。1～3、6は甕である。1は須恵器甕の頸部～肩部にかけての破片で外面に平行タタキとカキ目、内面は同心円当て具痕のちナデ消している。6は胴部下半の破片である。4、5は横瓶である。4は肩部の破片と考えられる。5は別の須恵器片が融着しており、窯の中で焼き台として用いられたものが融着している可能性がある。7は埴輪である。突帯付近の破片である。このほか、焼台も表採されており、これらの須恵器とともに窯から著持ち込まれた可能性がある（写真図版2）。



第3図 大草丘陵古墳群古墳分布図



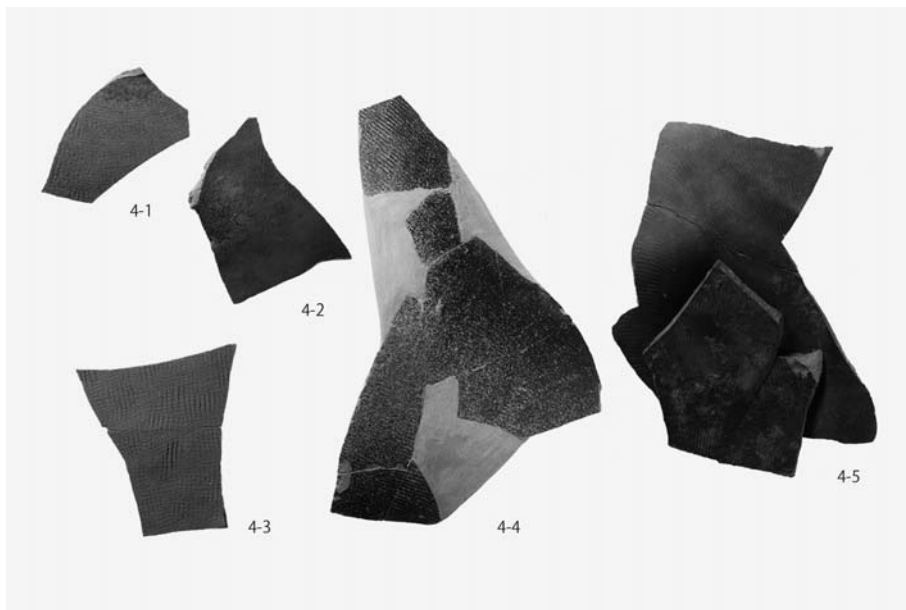
第4図 西百塚山古墳群K114周辺表採遺物

第8表 西百塚山古墳群K114周辺表採須恵器観察表

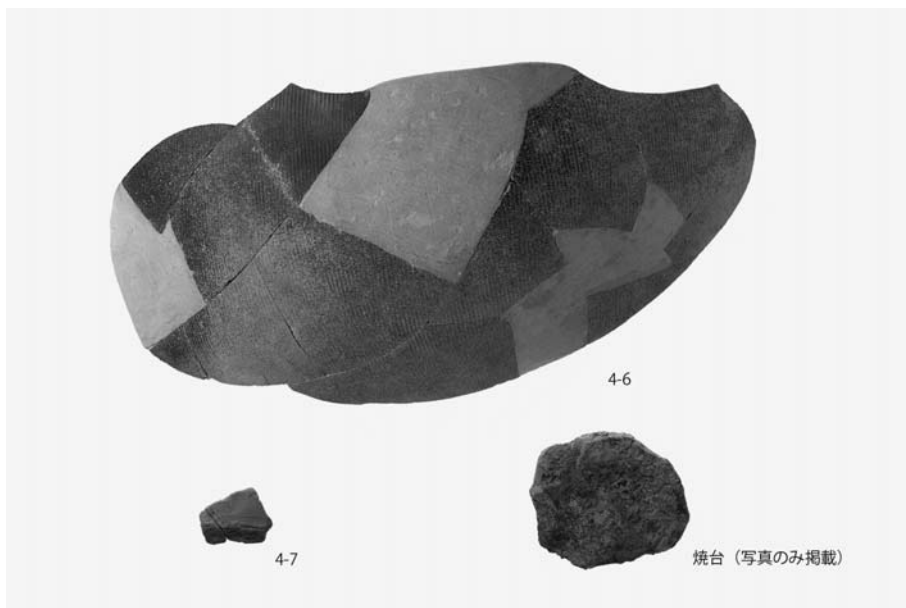
挿図 番号	写真 図版	種別	器種	採集古墳	採集 箇所	法量 0 内復元値			胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	時期・形式	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)						
4-1	1	須恵器	甕	西百塚山古墳群	②	—	—	—	密 (1mm の砂粒を含む)	良好	外面：灰色 N6/ 内面：灰色 5Y6/1	外面：平行タタキ、カキ目 内面：同心円当て具痕、ナデ		肩部に自然釉かかる
4-2	1	須恵器	甕	西百塚山古墳群	③	—	—	—	密 (1 ~ 2mm の砂粒を含む)	良好	外面：灰色 N5/ 内面：灰色 N6/	外面：格子タタキ、カキ目 内面：同心円当て具痕、カキ目		一部に自然釉かかる
4-3	1	須恵器	甕	西百塚山古墳群	①②	—	—	—	密 (1mm 以下の砂粒を少量含む)	良好	外面：灰色 7.5Y5/1 内面：灰色 N6/	外面：平行タタキ、カキ目 内面：同心円当て具痕		
4-4	1	須恵器	横瓶?	西百塚山古墳群	②	—	—	—	密 (1 ~ 3mm の砂粒を含む)	良好	外面：オリーブ黒色 5Y3/1 内面：灰色 7.5Y5/1	外面：平行タタキ 内面：同心円当て具痕、一部カキ目		
4-5	1	須恵器	横瓶	西百塚山古墳群	②	—	—	—	密 (1mm の砂粒を含む)	良好	外面：灰色 7.5Y5/1 内面：灰色 N6/	外面：格子タタキ、カキ目 内面：同心円当て具痕		別の須恵器片が融着する
4-6	2	須恵器	甕	西百塚山古墳群	①②	—	—	—	密 (1 ~ 2mm の砂粒を含む)	良好	外面：灰色 7.5Y4/1 ~ 灰白色 7.5Y7/2 内面：灰色 N6/	外面：平行タタキ 内面：同心円当て具痕		

第9表 西百塚山古墳群K114周辺表採埴輪観察表

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	採集古墳	採集 箇所	法量 0 内復元値			胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	時期・形式	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)						
4-7	2	埴輪	円筒	西百塚山古墳群	②	—	—	—	密 (1 ~ 2mm の砂粒を含む)	良好	外面：橙色 5YR6/8 内面：橙色 5YR6/8	外面：ナデ 内面：ナデ、指おさえ?		突帯部小片



写真図版 1 西百塚山古墳群K114周辺表採遺物 (1)



写真図版 2 西百塚山古墳群K114周辺表採遺物 (2)

3 島根県立松江北高等学校所蔵の遺物について

(1) はじめに

大草丘陵古墳群中の東西百塚山古墳群は、島根県立松江高校考古学部により発掘調査が、松江北高等学校考古学部・歴史愛好会により測量調査が行われ、土器や埴輪が発掘・採集されている。令和2年度より将来的な管理や活用の観点からこれらの遺物は、島根県立松江北高等学校から島根県埋蔵文化財調査センターに移管された。すでに報告された遺物もあるが、これらを改めて報告し、大草丘陵古墳群について検討する上での基礎資料を提示したい。なお、個別の詳細は観察表にゆずり、以下では遺物の編年上の特徴を中心に述べる。なお、() 数字は第6～10図、第12・13図の番号に同じである。

(2) 東百塚山古墳群

1号墳 1996年に島根県教育委員会によって墳丘の発掘調査が行われ、弥生土器、須恵器器台片、蓋形埴輪、円筒埴輪、旧表土から弥生土器が出土している。埴輪は基部倒立再調整をしないもの(埴輪Ⅳ期)である(大谷1996)。

2号墳 1号墳に隣接する方墳で多数の埴輪片が採集されている。円筒埴輪は基部倒立最調整を施した後、外面ハケメ調整をするもの(2)がある。出雲1・2期(大谷1994・2003)。

11号墳 墳丘各所で小片が採集される。(15)は基部外面を板状工具で倒立再調整をしたもの。出雲1・2期。

40号墳 墳頂部と裾から埴輪片採集。基部倒立再調整は、外面を板状工具でオサエ、内外面にナナメハケを施す(21)。

62号墳 尾根上先端に位置し、16×15mの長方形の方墳である。墳頂を通る遊歩道で土器片を採集した。前期の壺形土器の頸部片と考えられ、羽状文の刺突がある。隣接する鉄塔付近でも同様の土器が採集されており(大谷1996)、尾根上に前期古墳がある可能性が考えられる。

71号墳 古墳群最高所に位置する直径15mの円墳である。本墳出土と伝えられるU字形鋤先(島根大学所蔵)がある。2014年には島根県教育委員会が墳丘の発掘調査を行い(岩橋2018)、朝顔形・円筒埴輪片が出土している。この古墳には、1m四方の造り出しがあり、須恵器の有蓋高坏、無蓋高坏、臑の破片が採集されている(27～39)。高坏は3方透かしと4方透かしがあり、前者は有蓋高坏、後者は無蓋高坏と推定される。出雲1期(T K 208～T K 47)のものである。

86号墳 墳頂部と北側墳裾を中心に採集された。40の須恵器壺は、口縁端部の形状と内面当て具痕を丁寧にナデ消すことから出雲2期と推定。円筒埴輪は基部外面を板状工具で倒立再調整し、ナナメハケを施す(48・49)。出雲1・2期。

108号墳 7×6.5mの方墳で、墳頂部から須恵器蓋坏を採集(53)。蓋はほぼ完形に近く復元される。顕著な盗掘孔もないので、主体部上に備えられた土器が露出した可能性がある。出雲2期(T K 10)のもの。

125号墳 墳丘各所で須恵器大型の提瓶、大甕・壺片の胴部片を採集(57～61)。外面は格子叩き具痕があり、内面の同心円文当て具痕をナデ消す。

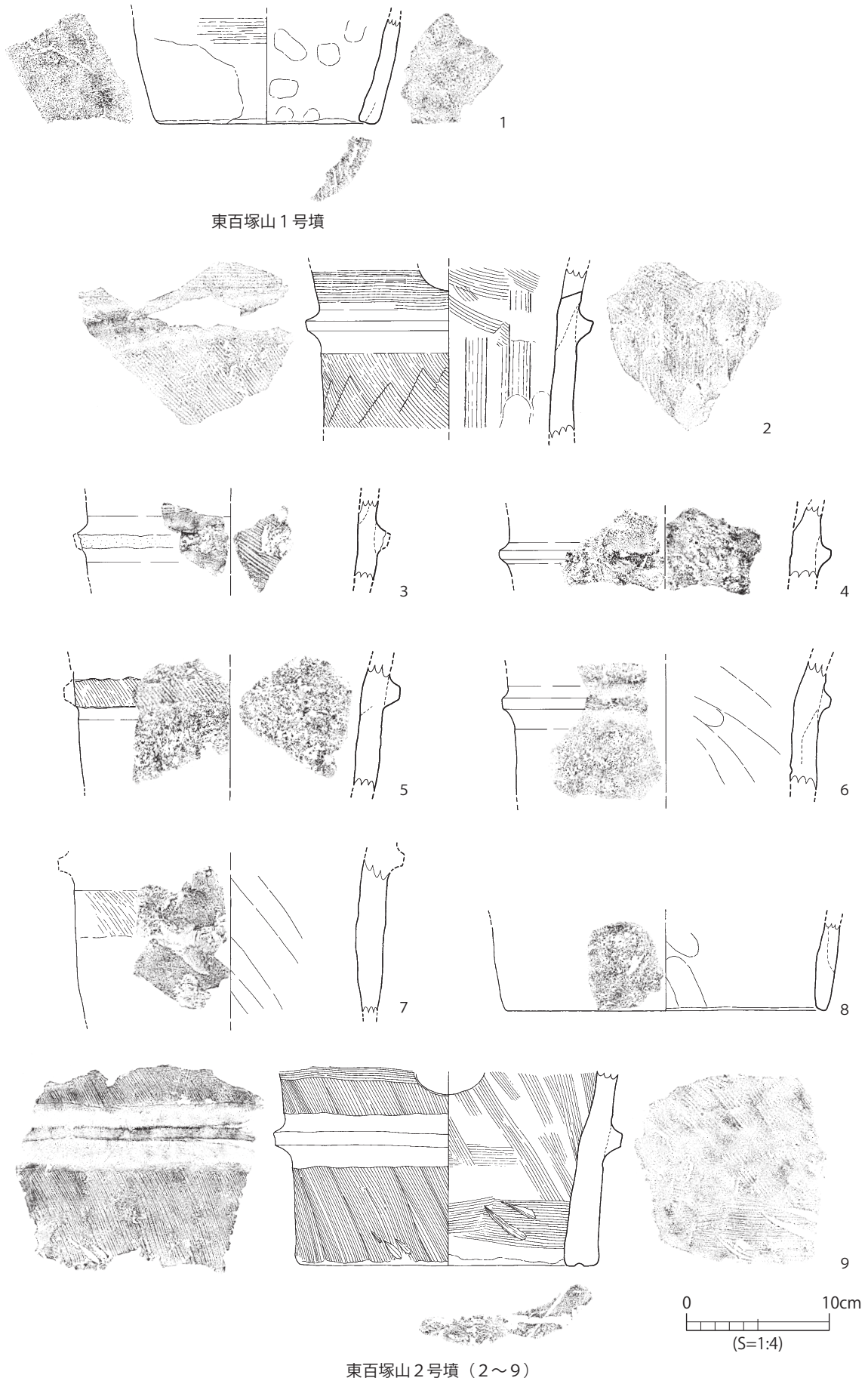
(3) 西百塚山古墳群

2号墳(七曲古墳) 七曲古墳は、長辺13m、高さ2mの方墳である(大谷2012)。昭和35(1960)年に松江高校考古学部によって発掘調査が実施されている(松江高校考古学部1961)。この調査では墳頂部に15個体の円筒埴輪がL字状に並び、一部に礫敷?も検出されている。埋葬施設は木棺直葬であったと考えられる(大谷2012)。

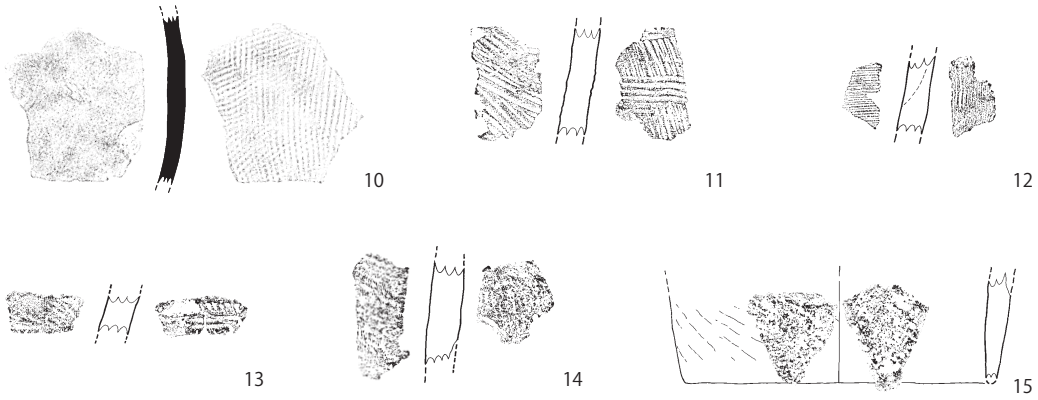
この調査で出土した遺物のうち、2個体が松江北高等学校に所蔵されていた。(68)は、朝顔形埴輪基部である。(67)に対して、器壁が厚いことや基部倒立再調整がないことから朝顔形埴輪と判断した。最下段の突帯まで残り、円形透かしを穿つ。基部倒立再調整はされていない。底面に木目痕がつく。突帯は粘土をあてて、とき



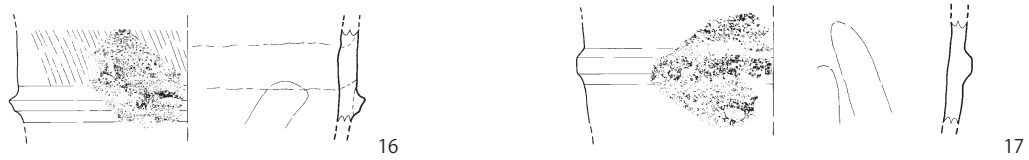
第5図 東百塚山・西百塚山古墳群遺物表採位置 (S=1:1500)



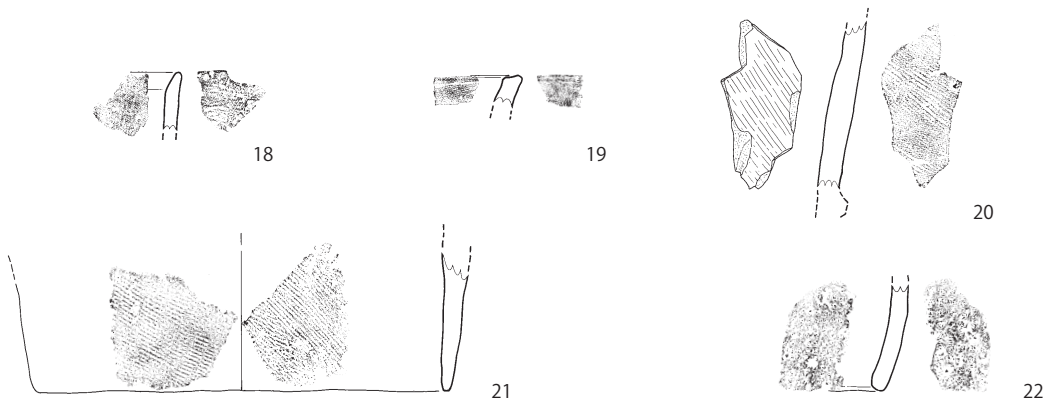
第6図 東百塚山古墳群表採遺物 (1)



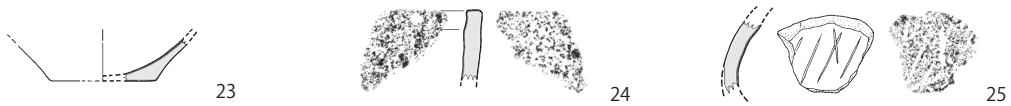
東百塚山 11 号墳 (10 ~ 15)



東百塚山 18 号墳 (16・17)



東百塚山 40 号墳 (18 ~ 22)

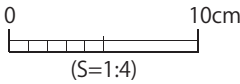


東百塚山 57 号墳

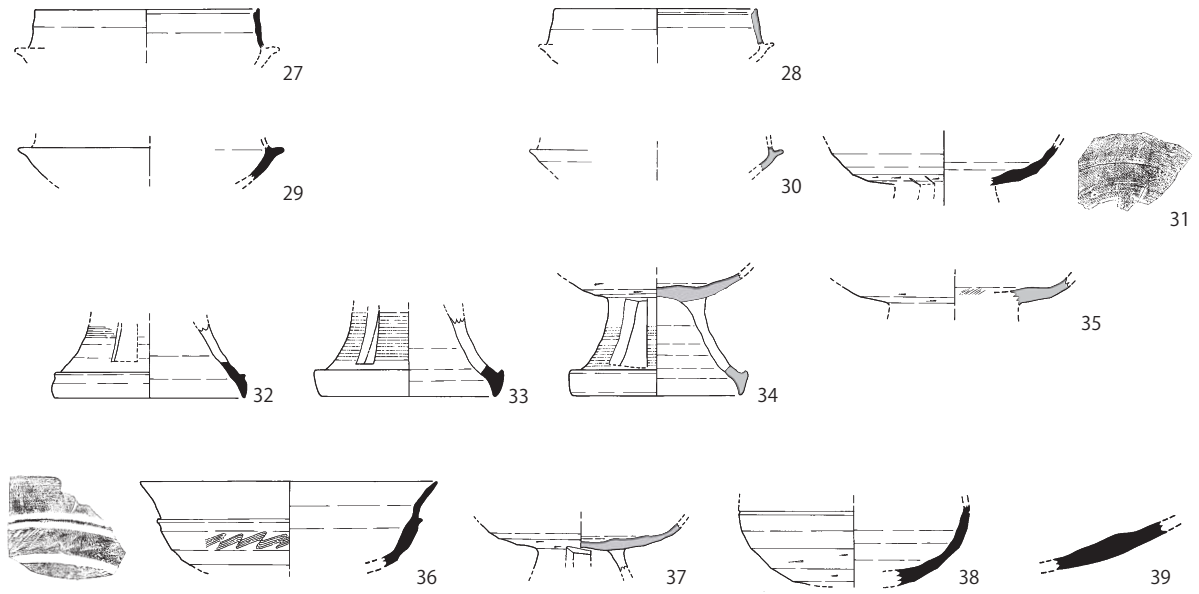
東百塚山 62 号墳 (24・25)



東百塚山 66 号墳

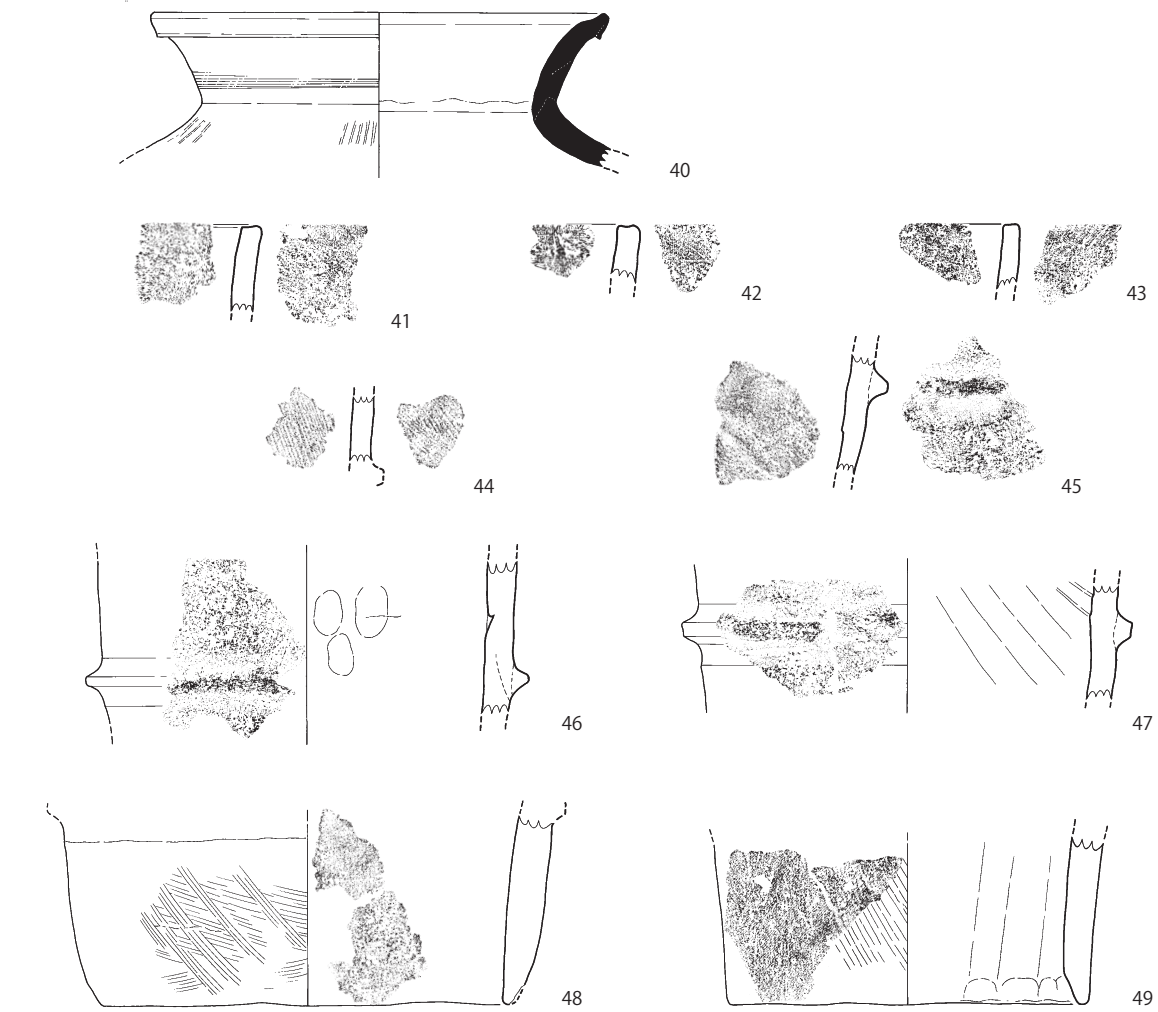


第 7 図 東百塚山古墳群表採遺物 (2)



東百塚山 71 号墳 造出 (27 ~ 39)

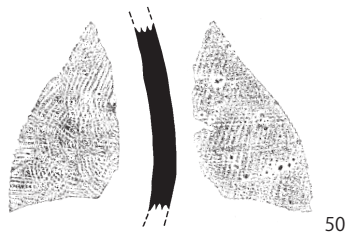
※断面グレー網掛け (28・30・34・35・37) は断面の色調がセピア色のもの



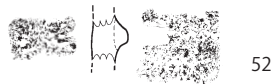
東百塚山 86 号墳 (40 ~ 49)

0 10cm
(S=1:4)

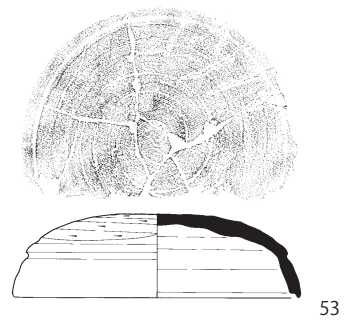
第 8 図 東百塚山古墳群表採遺物 (3)



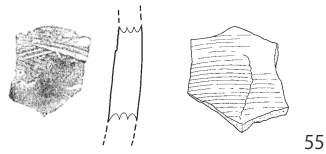
東百塚山 87 号墳 (50・51)



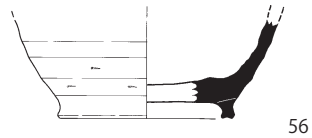
東百塚山 98 号墳



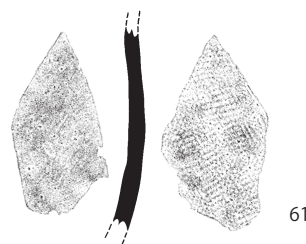
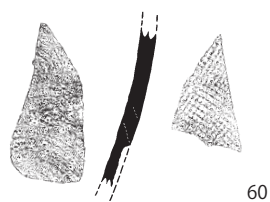
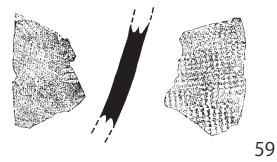
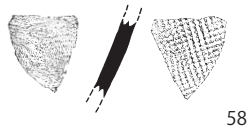
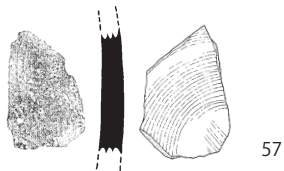
東百塚山 108 号墳 (53・54)



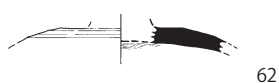
東百塚山 111 号墳



東百塚山 124 号墳周辺



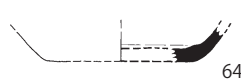
東百塚山 125 号墳 (57～61)



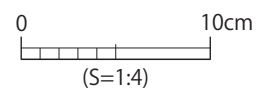
東百塚山 60 号墳の南西平坦地



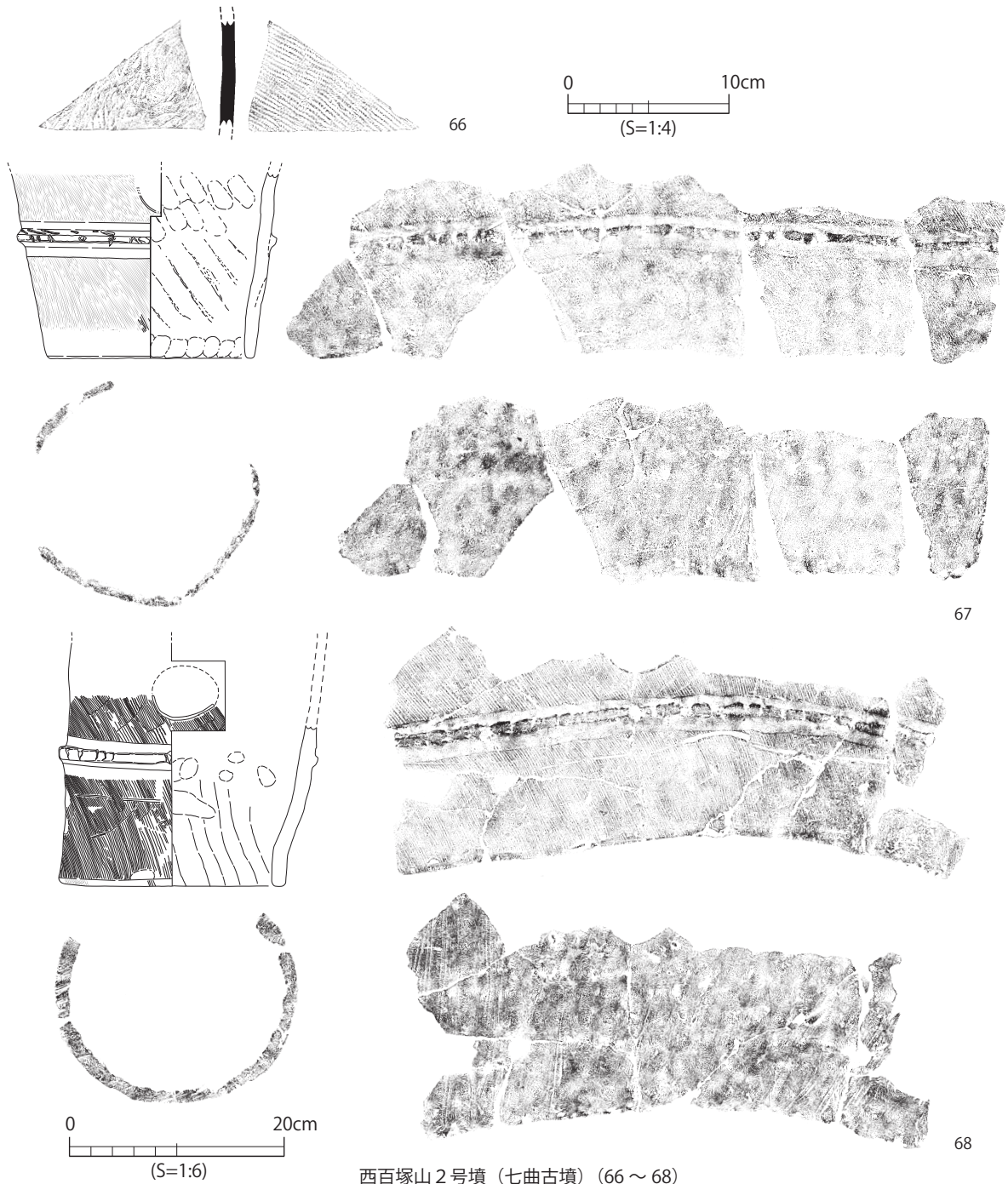
東百塚山 1 号墳北側の道



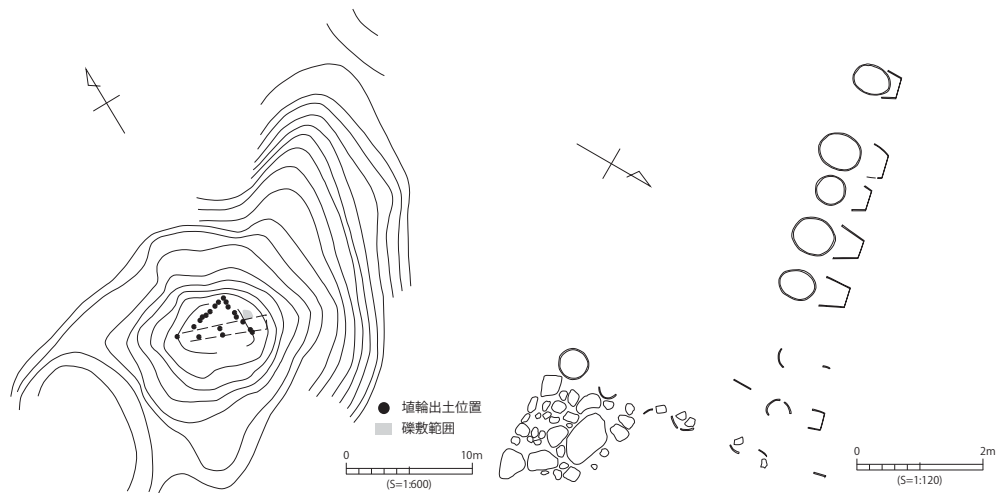
東百塚山 134 号墳の背後



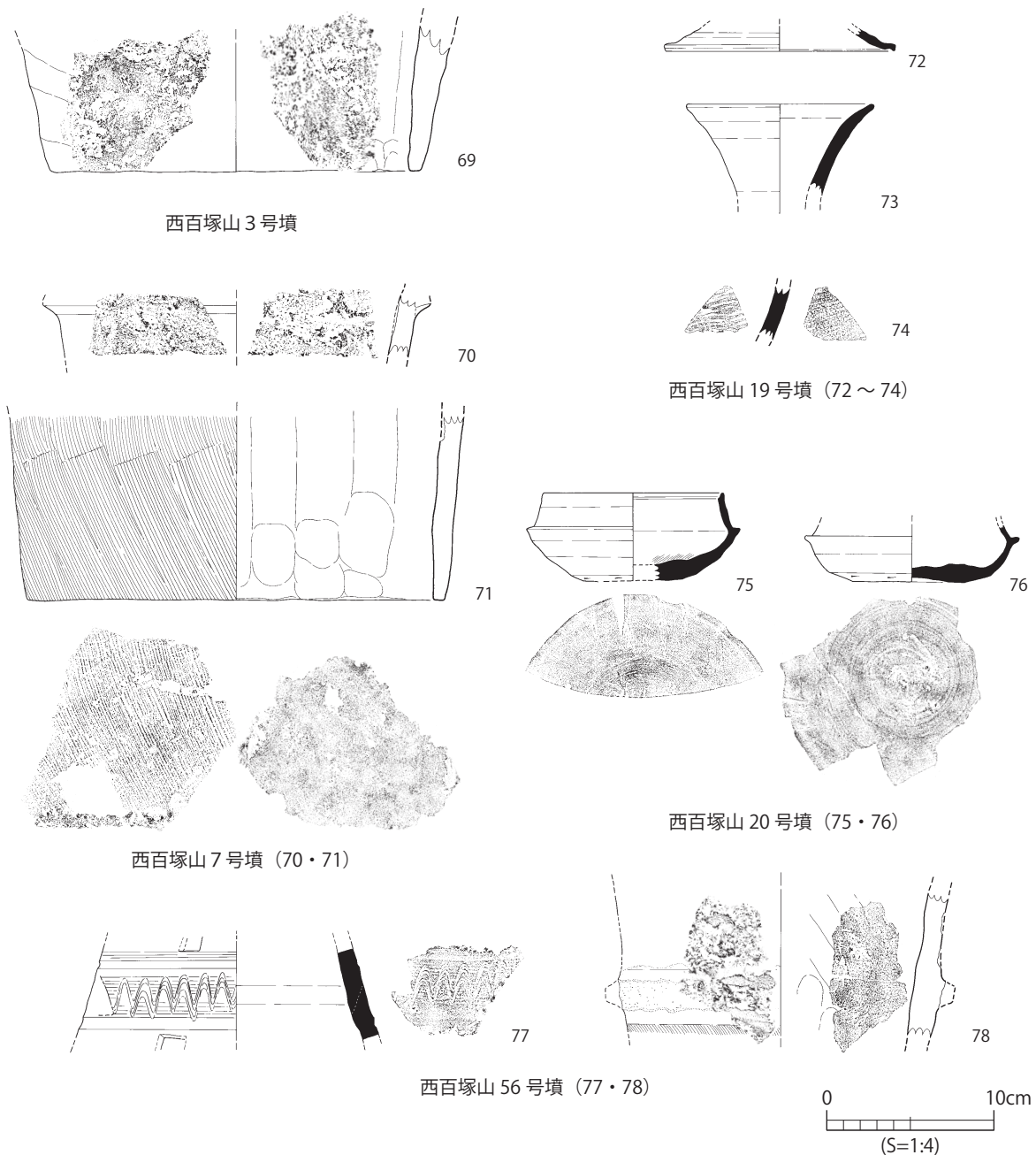
第9図 東百塚山古墳群表採遺物 (4)



西百塚山2号墳（七曲古墳）（66～68）
第10図 西百塚山古墳群出土・表採遺物（1）



第11図 西百塚山2号墳墳丘測量図・埴輪出土状況
(松江高校考古部1961を再トレース)



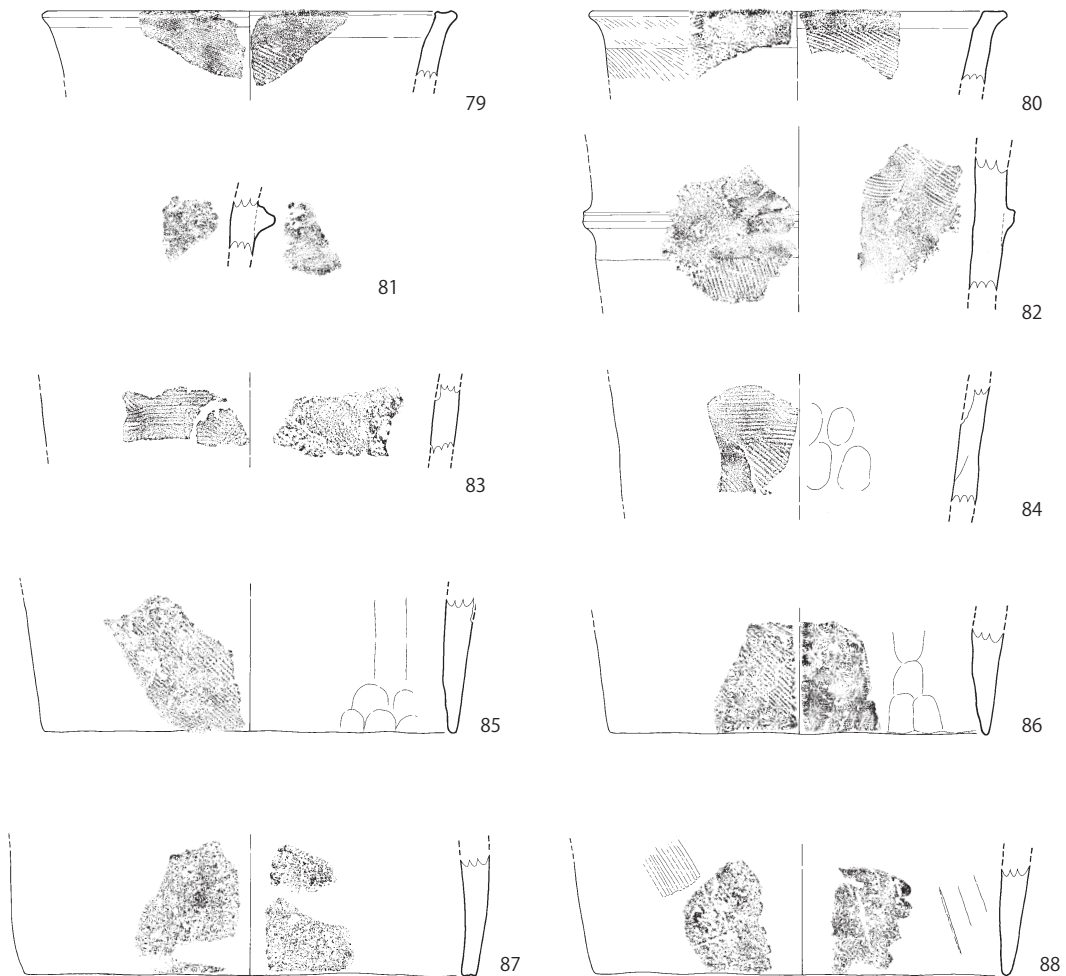
第12図 西百塚山古墳群表採遺物 (2)

れとぎれにナデつけて、貼り付けている。突帯の最終調整は行っていない。焼成がよく、やや須恵質の焼きである。(67)も最下段の突帯まで残り、円形透かしを穿つ。基部は、倒立再調整が行われており、外面に板状工具をあて、内面は指オサエで端部を薄く仕上げている。突帯は粘土をあてて、とぎれとぎれにナデつけて、貼り付けている。突帯の最終調整は行っていない。また、突帯付近には突帯貼り付け時についたと思われるナナメ方向の痕がつく。焼きは軟質である。いずれの埴輪も黒斑は見られない。

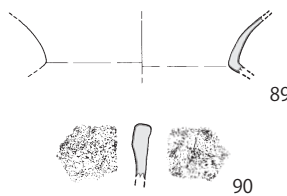
3号墳 2号墳との間の斜面で採集。(69)は板状工具を用いた基部倒立再調整あり。端部はカットしない。

7号墳 墳頂部の攪乱坑周囲で採集。(71)は基部倒立再調整後に外面ナナメハケ調整、内面は端部に指押サエ。端部はカットしない。

20号墳 12mの前方後円墳。丘陵側の周溝の外側で須恵器坏身2個体分を採集(75・76)。周囲の古墳との位置関係から20号墳に伴うと判断した。立ち上がりが高いが、口縁端部の段はそれほど鋭くもない。出雲1期後半



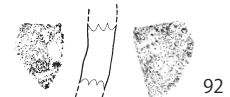
西百塚山 60 号墳 (79 ~ 88)



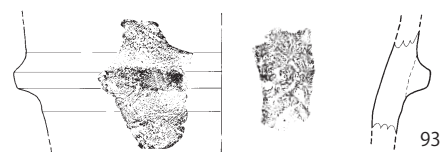
西百塚山 61 号墳



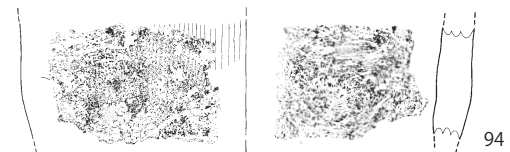
西百塚山 62 号墳



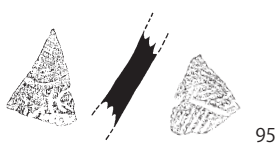
西百塚山 67 号墳



西百塚山 61 号墳北方



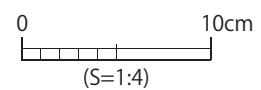
西百塚山 61 号墳の東



西百塚山 61 号墳の南



西百塚山 62 号墳の北



第13図 西百塚山古墳群表探遺物 (3)

(MT15)。墳丘上からも須恵器の小片を採集している。

56号墳 大型円墳の19号墳と前方後円墳の57号墳の間に位置する一辺8mの方墳。(78)は墳丘北側裾の道から、(77)はその下方斜面から採集。(78)は風化著しいがタガは扁平な台形のもの。(77)は器台の脚部片で方形と三角の透かしを3段、千鳥に配置し、波状文を施す。出雲1・2期のものか。

60号墳 10×14mの方墳で墳頂部の乱掘抗の排土や墳丘周囲で採集。口縁端部は外方に突出し、端面が平坦なもの。基部片は倒立再調整を施す。押圧または板状工具によるオサエの後、外面にナナメハケを施すもの(85・86)があり。(88)は内面に角柱状工具の当て具痕らしきものもある。すべて端部はカットしていない。出雲1・2期。

61号墳 墳丘上部南側が山道で削り込まれた排土と墳頂部のイノシシによる攪乱坑から土師器片を採集。(89)は薄手の土師器甕の頸部、(90)は壺の口縁部である。時期は不明。

67号墳 20.5mの前方後方墳である。後方部墳頂に大きな攪乱坑があり、その周囲の排土から埴輪の小片を採集。部位のわかるものはない。

(4) ま と め

表採遺物を含めた出土品から東西百塚山古墳群の時期を確認しておきたい。丘陵各所、古墳の旧表土や盛土中から弥生土器が出土する。東百塚山20号墓は弥生時代後期の四隅突出型墳丘墓であり、この丘陵は弥生時代から使われていた。古墳時代前期の遺物は、東百塚山62号墳と隣接する鉄塔周辺採集の頸部に羽状文をもつ大型壺の存在があり、東百塚山古墳群の東側尾根の先端に前期古墳がある可能性がある。墳形からは東百塚山141号墳(前方後方墳25m)、西百塚山57号墳(前方後円墳30m)が前期か中期初頭の可能性があると考えられる。中期には意宇平野の首長墓である西百塚山19号墳(径40m以上)が築かれ、古墳群中最大の方墳の1号墳(18.4m)がTK208前後に築かれる。尾根上の東百塚山65号墳→64号墳→63号墳、71号墳がTK208～TK47期に築かれ、これ以後、須恵器や埴輪が表採される古墳も増える。この古墳群の築造の最盛期がTK208～TK10期であることは間違いない。

4 おわりに

以上、大草丘陵古墳群の分布調査成果と東西百塚山古墳群の発掘・表採遺物について整理し、大草丘陵古墳群の基礎的な情報を提示した。大草丘陵古墳群は島根県内有数の群集墳であり、その基礎的な情報が提示されたことは、島根県の古墳時代研究を進める上で重要である。

分布調査では、新たに西百塚山古墳群で古墳14基、横穴墓37基、才光寺古墳群で古墳36基、横穴墓32基を確認した。この中には小型の前方後円墳や横穴式石室を埋葬施設とする古墳も含まれている。

表採遺物の報告では、大草丘陵古墳群では発掘調査が行われた古墳は少ないものの、時期の判明する遺物が報告されたことの意義は大きい。大草丘陵古墳群では、東百塚山20号墓が弥生時代後期に築造され、その後も連綿と古墳が築造され、横穴式石室を有する古墳や多数の横穴墓が築造される。弥生時代後期から古墳時代後期まで継続した丘陵の利用がなされている。今後は古墳群の形成や周辺地域とのかかわりの中で出雲地域における古墳時代社会の中で大草丘陵古墳群をどのように捉えていくかが課題となろう。

付記

本報告に使用した東西百塚山古墳群の測量図は松江北高等学校考古学部・歴史愛好会の実施した測量調査の成果を用いている。また、本報告に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター(島根県松江市打出町33番地)で保管している。

註

(1) 調査指導により、古墳と横穴墓は別番号を振り、頭にK：古墳、Y：横穴墓を付けた。また、本庄考古学研究室や大谷晃二氏により古墳に番号が既に振られているものはその番号を2桁までで振り、今回の分布調査で確認した古墳等には新たに3桁の番号を振った。なお、番号はすべて仮称である。

引用・参考文献

- 岩橋孝典2018「東百塚山古墳群の発掘調査」『上竹矢7号墳・東百塚山古墳群・古天神古墳・安部谷古墳群調査報告書』島根県教育委員会
- 大谷晃二1994「出雲地域の須恵器の編年と地域性」『島根考古学会誌』11島根考古学会
- 大谷晃二1996「東百塚山古墳群の採集遺物」『八雲立つ風土記の丘』137島根県立八雲立つ風土記の丘
- 大谷晃二1996「付編 東百塚山古墳群の測量調査」『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書』11島根県教育委員会
- 大谷晃二1998「付編 東百塚山1号墳の発掘調査」『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書』12島根県教育委員会
- 大谷晃二2003「円筒埴輪基底部再調整の技法復元」『宮山古墳群の研究』島根県古代文化センター
- 大谷晃二2012「東・西百塚山古墳群」『松江市史』史料編2 考古資料 松江市
- 松江北高校歴史愛好会2017「西百塚山19号墳―意宇平野に生きた豪族の証―」『季刊文化財』139島根県文化財愛護協会
- 松江北高校歴史愛好会2019「西百塚山57号墳は前方後円墳か？」『八雲立つ風土記の丘』No.266 島根県立八雲立つ風土記の丘
- 松江高校考古学部1961「大草古墳発掘」『松江高校生徒会誌』第7号 島根県立松江高等学校
- 松江市教育委員会1991『松江市遺跡地図』
- 山本 清1975「古墳」『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』島根県教育委員会
- 吉松優希・守岡正司2021「西百塚山19号墳発掘調査報告―大草丘陵古墳群の調査(1)―」『古代文化研究』29 島根県古代文化センター

第10表 東百塚山古墳群表探遺物観察表(挿図番号は第6～9図の枝番号のみ示している)

挿図番号	写真図版	種別・器種部位	採集古墳	法量()は 復元値、単位mm	胎土	焼成	色調 (①外面、②内面)	調整・手法の特徴	時期・備考
1	9	円筒埴輪基部	1号墳	基部粘土紐高60、基部端厚15	密(1mm程度の砂粒を少量含む)	良好	①にぶい黄橙色10YR7/4 ②にぶい黄橙色10YR7/4	基部倒立再調整なし。基部粘土帯約6cm。外面ヨコハケか。内面ナデ、指押さえ。	
2	9	円筒埴輪基部	2号墳	器壁厚15、タガ高10	粗(3mm大の砂粒が目立つ)	須恵質、堅緻良好	①褐灰色7.5YR4/1 ②暗赤灰色5R4/1	2段目外面は2次ヨコハケ、内面はナメハケ。倒立再調整あり(外面は倒立ナメハケを時計回りに施す。内面はタテハケに見えるが、当て具痕であろう)。	出雲1・2期
3	9	円筒埴輪下段タガ	2号墳	器壁厚15、タガ高10	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	土師質良好	①橙色5YR6/8 ②橙色5YR6/8	タガ先端欠損。2段目外面はヨコハケ、内面はナメハケ。	
4	9	円筒埴輪タガ	2号墳	器壁厚20、タガ高9	密(1mmの砂粒を含む)	良好	①橙色5YR6/8 ②橙色5YR6/8	内外面調整不明。	
5	9	円筒埴輪下段タガカ	2号墳	器壁厚15、タガ高10	やや粗(1～3mmの砂粒を含む)	土師質良好	①橙色5YR6/8 ②橙色7.5YR6/8	タガは剥離し、外面1次ナメハケが見える。他の調整は内外面ともに風化で不明。	
6	9	円筒埴輪下段タガ	2号墳	器壁厚17、タガ高8	やや密(最大3mmの砂粒を含む)	土師質良好	①橙色5YR6/8 ②橙色5YR6/8	外面は磨減で調整不明、内面はナメナデ。	
7	9	円筒埴輪基部	2号墳	基部高100以上、器壁厚20～11	やや密(1mm程度の砂粒を含む)	土師質良好	①橙色5YR6/8 ②橙色5YR6/8	基部外面は1次ナメハケが倒立再調整(凹凸がないので板状工具か)で消える。内面は強いナメナデと考えられる。	出雲1・2期
8	9	円筒埴輪基部端	2号墳	器壁厚14	やや密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	①橙色5YR6/8 ②橙色5YR6/8	倒立再調整あり(基部外面は凹凸がなく板状工具によるオサエ、内面は指オサエか。風化するがハケメ見えず。端部はカットなし)。	出雲1・2期
9	9	朝顔形埴輪基部	2号墳	基部高80、基部径(213)、タガ高12	やや粗(2mm以上の砂粒がまばらに含む)	良好(堅緻)	①橙色2.5YR6/8 ②橙色5YR6/8	内外面ともに基部から中段まで一続きのナメハケを時計回りに施す。中段にヨコハケあり。内面は基部下半にヨコハケを施す。倒立再調整なし。	
10	10	須恵器壺・甕胴部	11号墳	器壁厚9	密(0.5mm以下の長石をわずかに含む)	良好	①灰黄色2.5Y6/2 ②褐灰色10YR6/1	外面はタタキ具痕あり。内面は同心円文当て具で丁寧に消す。	
11	10	円筒埴輪中段	11号墳	器壁厚14	やや密(1mm程度大の小石を含む)	土師質良好	①橙色7.5YR7/6 ②橙色7.5YR7/6	外面は1次ナメハケ、2次ヨコハケ、内面はナメハケ。	
12	10	円筒埴輪体部	11号墳	器壁厚14	やや粗(最大3mmの砂粒を含む)	土師質良好	①にぶい橙色7.5YR6/4 ②橙色7.5YR6/6	天地は不明。外面はタテハケ、内面はヨコハケで図示した。	
13	10	円筒埴輪中段	11号墳	器壁厚15	密(1mmの砂粒を含む)	土師質良好	①橙色5YR6/8 ②橙色5YR6/8	外面は1次ナメハケ、2次ヨコハケ、内面はナメハケ。	
14	10	円筒埴輪基部か	11号墳	器壁厚16	やや粗(1～4mm大の小礫を含む)	土師質良好	①黄橙色7.5YR7/8 ②黄橙色7.5YR7/8	磨減で調整不明瞭だが外面・内面ともにナメハケ。器壁に凹凸があり、倒立再調整を施した基部と推定。	
15	10	円筒埴輪基部か	11号墳	器壁厚12～7	やや粗(1～2mmの砂粒を含む)	土師質良好	①橙色5YR6/8 ②橙色7.5YR6/8	薄いため倒立再調整した基部と判断。磨減で調整不明瞭だが外面にはかすかにナメハケまたはタタキ具痕の筋らしきものが見える。	出雲1・2期
16	10	円筒埴輪上段タガ	18号墳	器壁厚10、タガ高5、粘土紐幅25	密(1～2mmの砂粒を含む)	土師質良好	①橙色5YR6/8 ②橙色7.5YR7/8	器壁薄いため上段タガと判断。タガの端部はシャープなM字。外面はかすかにナメハケ調整見える。	
17	10	円筒埴輪タガ	18号墳	器壁厚8、タガ高5	密(1～2mmの砂粒を含む)	土師質良好	①黄橙色10YR8/6 ②黄橙色10YR8/6	器壁薄い。タガは断面扁平な台形。調整は磨減のため不明。	
18	10	円筒埴輪口縁部	40号墳	器壁厚7	密(1mm程度の砂粒を含む)	土師質良好	①黄橙色10YR8/6 ②橙色7.5YR7/6	口縁端部は丸く面はない。外面は端部までヨコハケ。内面は磨減で調整不明。	
19	10	円筒埴輪口縁部	40号墳	器壁厚10	やや密(1mm以下の砂粒を少量含む)	土師質良好	①橙色7.5YR6/6 ②橙色5YR6/6	端部は面があり、外へ突出。外面はナメハケを端部ヨコナデで消す。内面はヨコナデ。	20と色調・焼成類似。
20	10	円筒埴輪口縁部	40号墳	器壁厚12	密(1～2mmの砂粒、黒色粒を含む)	土師質やや良好	①橙色2.5YR6/8 ②褐色5YR7/6	内外面ともにナメハケ。	
21	10	円筒埴輪基部	40号墳	基部高70以上、器壁厚5～6	密(1～2mmの砂粒を含む)	土師質良好	①明赤褐色2.5YR5/8 ②明赤褐色2.5YR5/8	基部倒立再調整あり(外面は板状工具によるオサエ痕らしき面あり、内面は強いナメナデと端部に指オサエ痕あり。内外面ともに倒立ナメハケ。端部はカットなし)。	出雲1・2期
22	10	円筒埴輪基部	40号墳	基部高55以上、器壁厚9	密(1～1.5mmの砂粒を含む)	土師質良好	①褐色7.5YR7/6 ②橙色7.5YR7/6	内湾する歪んだ基部で基部倒立再調整をしたと判断。外面は磨減、内面はナデで平滑。端部はカットなしで丸い。	出雲1・2期
23	10	弥生土器壺底部か盃形器台	57号墳	器壁厚14～4、底部径(55)	やや粗(1mm以下の砂粒を微量含む)	良好	①にぶい橙色7.5YR7/4 ②褐色7.5Y6/4	底部は平ら。内面は体部にむけてまっすぐのびる。磨減で調整不明。	弥生時代?
24	10	土師器壺口縁部	62号墳	器壁厚8	やや粗(1mm以下の砂粒を微量含む)	良好	①明黄褐色10YR7/6 ②明黄褐色10YR7/6	大壺の直立した口縁部。端部はわずかに肥厚し、面がある。調整は磨減により不明。	
25	10	土師器壺頸部	62号墳	器壁厚8	密(1mm程度の砂粒を少量含む)	良好	①黄橙色10YR8/6 ②にぶい黄橙色10YR7/4	大壺の頸部。刺突により羽状文施す。調整は磨減により不明。	古墳前期
26	10	須恵器壺体部	66号墳	器壁厚5.5～6.5	密(0.5mm以下の砂粒を少し含む)	良好堅緻	①にぶい褐色7.5YR5/3 ②青灰色5PB5/1(やや赤味がかかる)	外面はタタキ後カキメ、内面は同心円文の当て具の後、ナデできれいに消す。	
27	11	須恵器有蓋高環?口縁端部	71号墳	立上高約20、器壁厚2.0～3.2	緻密(ほとんど砂粒を含まず)	良好堅緻	①灰色N5/ ②灰色N5/	端部は沈線により段状にし、内側のエッジは鋭い。器壁薄い。全面ヨコナデ。	29・33と同一個体か
28	11	須恵器有蓋高環?口縁端部	71号墳	立上高約20、器壁厚2～4	緻密(砂粒をほとんどを含まない)	良好堅緻	断面セピア色 ①褐灰色10YR5/1 ②褐灰色7.5YR5/1	端部は沈線により段状にし、内側のエッジは鋭い。器壁薄い。全面ヨコナデ。	30・34と同一個体か
29	11	須恵器有蓋高環?环受部	71号墳	受部突出6、立上厚2、器壁厚4	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	①灰色N5/ ②灰色N5/	受部は真横に突出。内外面ヨコナデ。	
30	11	須恵器有蓋高環?环受部	71号墳	受部突出4、立上厚2、器壁厚3	緻密(ほとんど砂粒を含まず)	良好堅緻	断面セピア色 ①灰色7.5Y4/1 ②暗灰色N3/	受部は真横に突出し、29より小さく薄くシャープ。内外面ヨコナデ。	
31	11	須恵器高环坏部	71号墳	器壁厚5～4、脚の付根径(50)	密(1mm程度の砂粒を微量含む)	良好	①黄灰色2.5Y5/1 ②黄灰色2.5Y6/1	坏底部は回転ヘラケズリ。内面はヨコナデ。	32と同一個体か
32	11	須恵器高环坏部	71号墳	残存高37、脚端部径(10)	密(0.5mm以下の砂粒を少し含む)	良好	①黄灰色2.5Y5/1 ②灰色Y6/1	脚端部は内湾し、その上端が突出。方形透かしあり。外面はカキメ、内外面ヨコナデ。	出雲1期 (TK208～47)
33	11	須恵器高环坏部	71号墳	残存高42、脚端部径(92)	密(1mm程度の砂粒を少量含む)	良好	①灰色N5/ ②灰色Y6/1	脚端部は内湾し、上端が突出するが、外面は単純。内外面ヨコナデの後、外面はカキメ。1段3方の方形透かしと推定。	出雲1期 (TK208～47)
34	3	須恵器高环坏部	71号墳	脚端部径85、脚高52、坏部厚3～7	緻密(0.5mm以下の長石を少し含む)	良好堅緻	断面セピア色 ①褐灰色5YR6/8 ②赤灰色5.5R5/1	脚端部は内湾し、上端が突出するが、外面は単純。内外面ヨコナデの後、外面はカキメ。1段3方の方形透かし。	出雲1期 (TK208～47)
35	11	須恵器高环坏部	71号墳	器壁厚4～6	密(1mm程度の砂粒を少量含む)	良好	断面セピア色 ①灰色7.5Y5/1 ②灰色5N/	外面はヨコナデ後、回転ヘラケズリ、高环の取り付けナデ。内面はヨコナデ後、縦方向の仕上げナデ。	
36	11	須恵器高环坏部	57号墳	口縁部径(153)、残存高45、器壁厚7～3	密(1～2mmの砂粒少量含む)	良好	①灰色N6/0 ②灰オリーブ色5Y6/2 灰軸かかる	口縁部外反し、端部は薄く尖る。体部との境に鋭い突起、その下に波状文。内面には灰軸。	出雲1期 (TK208～47)
37	11	須恵器高环坏部	71号墳	体部厚3～5、脚付根径5.7	緻密(0.5mm以下の長石を少し含む)	良好堅緻	断面セピア色 ①灰黄褐色10YR5/2 ②赤灰色2.5YR4/1	坏部は薄い。底部はヘラケズリ後、脚の取り付けナデ。脚は4方向の幅10mmの長方形透かし。	出雲1期 (TK208～47)
38	11	須恵器甕か底部	71号墳	胴部径(120)、器壁厚3～7	密(0.5mm以下の長石をわずかに含む)	良好	①灰色N5/ ②褐灰色7.5YR5/1	体部に沈線一条あり。内外面にヨコナデ。内面底部にはタタキ痕などなし。外面下半は鋭い回転ヘラケズリ。	
39	11	須恵器壺・甕底部か	71号墳	器壁厚6～10	密(1～1.5mmの砂粒を少量含む)	やや不良	①灰黄色2.5Y7/3 ②灰黄色2.5Y7/3	外面は平滑だが、若干の面あり。当具か。内面は凹凸あり、指押さえか。タタキ整形の可能性あるが、当て具痕はない。	
40	11	須恵器壺口縁部	86号墳	口径238、頸高48、厚10～15	密(1mm以下の砂粒を極少量含む)	外面に灰軸良好	①明赤-灰2.5GY7/1 ②灰色7.5Y6/1	口縁は肥厚する二重口縁。頸部外面にハケメ、肩外面に平行タタキ痕、内面はナデ消され当て具痕見えない。	出雲2期
41	11	円筒埴輪口縁部	86号墳	器壁厚8	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	①橙色5YR6/8 ②褐色7.5YR7/8	端部はM字形に凹む。内外面磨減して調整不明。	
42	11	円筒埴輪口縁部	86号墳	器壁厚14	密(2mm程度の砂粒を少量含む)	良好	①赤褐色5YR4/6 ②明赤褐色5YR5/6	端部はM字形に凹む。外面は端部までナメハケ。内面はヨコナデ。	
43	11	円筒埴輪口縁部	86号墳	器壁厚11	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①橙色5YR6/8 ②明赤褐色2.5YR5/6	端部はわずかにM字に凹む。外面は磨減して調整不明。内面はナデ。	
44	11	円筒埴輪体部	86号墳	器壁厚12	密(1mm程度の砂粒を含む)	須恵質やや良好	①赤-褐2.5Y4/3 ②赤-褐2.5Y4/3	内外面ナメハケ。	
45	11	円筒埴輪タガ	86号墳	タガ高10、器壁厚12	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	①橙色5YR6/8 ②明赤褐色5YR5/8	タガは断面台形。内外面磨減して調整不明。	
46	11	円筒埴輪タガ	86号墳	タガ高10、器壁厚11～18	密(1mm以下の砂粒を含む)	やや良好	①橙色5YR6/8 ②明赤褐色5YR5/8	タガは端部がやや丸みをもつ断面台形。外面磨減して調整不明。内面は指オサエとナデ。	

大草丘陵古墳群出土遺物について

挿図 番号	写真 図版	種別・器種 部位	採集古墳	法量（ ）は 復元値、単位mm	胎土	焼成	色調 (①外面、②内面)	調整・手法の特徴	時期・備考
47	11	円筒埴輪 タガ	86号墳	タガ高10、 器壁厚10～12	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	やや良好	①明赤褐色5YR5/8 ②明赤褐色5YR5/6	タガは断面台形。調整は外面は磨減で不明。内面は強いナメナデで凹つづく。	
48	11	円筒埴輪 基部	86号墳	基部高95、 最大厚19～12	密(1mm以下の砂粒を含む)	やや良好	①赤褐色5YR4/8 ②明赤褐色5YR5/8	倒立再調整あり（外面のかすかな面は板状工具のタキ痕か。その後、倒立ナメナヘ。内面はナデで平滑、工具痕は見えない。基部端は剥離するがカットはない）。	出雲1・2期
49	11	円筒埴輪 基部	86号墳	基部高87以上、器 壁厚17～7	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①明褐色7.5YR5/6 ②明赤褐色5YR5/6	倒立再調整あり（内面は棒状当て具の凹みあり、その後ナデ調整。端部は指オサエ。外面は凹みなく板状工具によるタキか。磨減で不明瞭だが倒立ナメナヘ見える）。	出雲1・2期
50	12	須恵器壺・甕 体部	87号墳	器壁厚10	密(1mm程度の砂粒を若干含む)	良好	①灰白～7色5Y6/2 ②灰白色2.5Y7/4	外面はタキの後カキメ、内面は同心円文当て具痕が一部ナデ消される。	40と同一個体か
51	12	須恵器壺・甕 体部	87号墳	器壁厚9	密(微砂粒を若干含む)	良好	①浅黄褐色2.5Y7/4 ②灰白色2.5Y7/1	外面は灰釉が厚くかかる。内面は同心円文当て具痕がのこり、当て具痕はナデで消される。	40と同一個体か
52	12	円筒埴輪 タガ	98号墳	タガ高6、 器壁厚12			①橙色5YR6/6 ②橙色5YR6/8	タガは台形だが、磨減著しく調整不明。	
53	4	須恵器環蓋	108号墳	口径150、高44、 器壁厚6～8	やや粗(1mm位の砂粒がまばらに見える)	やや不良 軟質	明灰白色（やや褐色気味）	天井部から口縁部に1条の沈線で明瞭に分ける。口縁端部は沈線でゆるい段状に仕上げる。天井部は回転ヘラ削り。内面は仕上げナデあり。	出雲2期 (TK10)
54	12	須恵器環身 受部	108号墳	器壁厚2.5～4、受 部突出5	密(ほとんど砂粒等含まない)	良好	①灰色7.5Y5/1 ②灰色7.5Y6/1	受部は短く真横に突出。立ち上がり急。内外面ヨコナデ。	出雲2期 (TK10)
55	12	円筒埴輪 タガ	111号墳	器壁厚12～15	密(1mm以下の砂粒を若干含む)	良好	①橙色5YR6/6 ②橙色5YR6/6	表面はヨコハケ、内面はナデの後、ナメナヘ。	
56	12	須恵器長頸瓶 底部	124号墳の 南東	高台径94、高台 高9、残存高50	密(1mm以下の長石等を少し含む)	良好	①黒色5Y1/2 ②灰色N4/	体部は平底、胴部下半は回転ヘラケズリ。高台は短いが端部は断面M字形でしっかり踏ん張る形。	7・8世紀
57	12	須恵器提瓶 体部	125号墳	器壁厚9～135	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①灰色N6/1 ②オリブ灰色2.5GY6/1	外面タタキの後、カキメ。内面は同心円の当て具痕をナデ消す。	
58	12	須恵器大甕 体部	125号墳	器壁厚6～8	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①灰色N5/0 ②灰色N6/1	外面は格子タタキ痕、内面は同心円当て具痕をナデ消す。	
59	12	須恵器大甕 体部	125号墳	器壁厚9	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①灰色N5/0 ②灰色N6/1	外面は格子タタキ痕、内面は同心円当て具痕をナデ消す。	
60	12	須恵器大甕 体部	125号墳	器壁厚8	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①灰白色7.5Y7/1 ②灰白色N7/	外面格子タタキの後、カキメ。内面は同心円の当て具痕をナデ消す。	
61	12	須恵器大甕 体部	125号墳	器壁厚7～8	密(3mm程度大の小石を含む)	良好	①灰色N6/0 ②灰色N6/0	外面は格子タタキ痕、内面は同心円当て具痕をナデ消す。	
62	12	須恵器環蓋 天井部	86号墳西 方平坦地	器壁厚6～9	密(1～2mmの砂粒を少量含む)	良好	①灰オリブ色5Y6/2 ②灰オリブ色5Y6/2	外面ヘラケズリ、内外面ヨコナデ。内面天井部に仕上げナデ。輪状つまみが破損か。	7世紀
63	12	須恵器環蓋	1号墳北側 の道	器壁厚2～6	密(1mm以下の白色粒を含む)	良好	①灰色5Y4/1 ②灰白色5Y7/1	体部と口縁部の境は小さく鋭い突帯。内外面ヨコナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ。	出雲1期 (TK208～47)
64	12	須恵器 底部	1号墳北側 の道	器壁厚4～7、 底径径(80)	密	良好	①緑灰色5G5/1 ②緑灰色5G5/1	底部は平底。底部はヘラ切りまたは糸切り後ナデ消しか。	
65	12	須恵器大甕 口縁部		器壁厚11～13	やや粗(1～2mmの砂粒を含む)	良好	①灰色N4/0 ②灰色N5/0	大甕の口縁外面にタタキ具痕あり。その上に幅5mmの凹線2条入れて、ヨコナデ。内面はヨコナデ。	

第11表 西百塚山古墳群表採遺物観察表（挿図番号は第10図、第12・第13図の枝番号のみ示している）

挿図 番号	写真 図版	種別・器種 部位	採集古墳	法量（ ）は 復元値、単位mm	胎土	焼成	色調 (①外面、②内面)	調整・手法の特徴	時期・備考
66	13	須恵器大甕 胴部	2号墳南側 丘陵斜面	器壁厚8	密(0.5mm以下の砂粒をわずかに含む)	良好 堅緻	①黄灰色2.5Y4/1 ②黄灰色2.5Y6/1	外面格子タタキ痕、内面は同心円文をわずかにナデ消す。	
67	5	円筒埴輪 タガ	2号墳	基部径192、タガ 高6、器壁厚12 ～10	やや粗(1～2mmの砂粒を多く含む)	良好	①橙色7.5YR7/6 ②橙色7.5YR7/6	外面1次ナメナヘ、内面ナデ。倒立再調整あり（端部外面は板状工具、内面は指オサエで薄く仕上げ、1次ハヘが消える）。突帯はとぎれとぎれにナデつけて貼り付ける、未調整。凹凸あり。円形透かし。	出雲1・2期
68	6	朝顔形埴輪	2号墳	基部径212、タガ 高6.5	密(1mm以下～5mmの砂粒を含む)	良好 やや須恵質	①にぶい黄褐色10YR7/3 ②灰黄褐色10YR6/2	外面はナメナヘ。底部調整なし。内面はタテ方向の強いナデ。突帯はとぎれとぎれにナデつけて貼り付ける、未調整。凹凸がある。円形透かし。	
69	13	円筒埴輪 基部	3号墳	基部高85以上、 器壁厚19～6	やや粗(2mm程度大の小石を含む)	良好	①橙色5YR6/8 ②橙色5YR6/8	倒立再調整あり（外面は円柱状工具によるタタキか。内面は縦方向のナデ。当て具痕は見えず。端部は外面は板状工具、内面は指オサエ。端部の面はカットではない）。	出雲1・2期
70	13	円筒埴輪 タガ	7号墳	器壁厚12、 タガ高7	密(1mm程度の砂粒を若干含む)	良好	①橙色7.5YR7/6 ②にぶい黄褐色10YR5/4	外面は磨減で不明、内面はナデ。	
71	13	円筒埴輪 基部	7号墳	基部高108以上、 器壁厚13～7	やや粗(2mm大の砂粒をわずかに含む)	良好	①暗褐色 ②暗褐色	基部倒立再調整あり（外面は倒立ナメナヘ、内面上半は縦方向の円柱状当具かタナデ、端部は指オサエ。端部わずかに面があるがカットではない）。	出雲1・2期
72	13	須恵器環蓋 口縁部	19号墳	口径13.6、 器壁厚4～3	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①灰白色2.5Y7/1 ②灰白色2.5Y7/1	天井部から口縁部に屈曲し、端部を小さく折り曲げる。内外面ヨコナデ。	8世紀
73	13	須恵器長頸瓶 口縁部	19号墳	残存長55、口縁径 114	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①暗灰色N3/0 ②灰色5Y4/1	口縁は単純に丸い。内外面ヨコナデ、内面は灰釉。	7世紀後半
74	13	須恵器大甕 胴部	19号墳	器壁厚9	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①灰色N4/0 ②灰色N5/0	タタキ成形（外面格子タタキ、内面同心円文当て具痕）。	
75	7	須恵器環身	20号墳	口径107、高53、 立上高20、受部 突出5	やや密(0.5mm以下の砂粒がわずかに含む)	良好	①暗灰色 ②暗灰色	受部は小さく、真横に出る。口縁部は小さな段をつくる。内外面ヨコナデ、底部外面は浅い回転ヘラケズリ、内面には仕上げナデ。回転台時計回り。	出雲1後半 (MT15)
76	8	須恵器環身	20号墳	最大径128、受部 突出5、器壁厚3 ～10	やや密(大きな砂粒が目立たない)	良好 堅い	①暗灰色 ②暗灰色	底部はややつぶれる。内外面ヨコナデ、底部内面は仕上げナデなし。外面はヘラケズリ、中心付近は削り浅い。回転台時計回り。	出雲1後半 (MT15)
77	13	須恵器台 脚部	56号墳	器壁厚11、残存部 最大径(180)	密(砂粒などがほとんど含まない)	不良	①浅黄褐色10YR8/3 ②灰白色10YR8/2	外面はヨコナデ後、カキメをして波状文を施文。方形透かしと三角透かしを千鳥に入れる。透かしの上下には浅い凹線があるが、意図的な強いナデか不明。	出雲1・2期
78	13	円筒埴輪 タガ	56号墳	器壁厚11～15	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	①橙色5YR6/8 ②褐色10YR4/1	表面磨減、タガは欠損。下にはナメナヘ、内面はナメナデ。	
79	13	円筒埴輪 口縁部	60号墳	器壁厚8～10	やや密(1mmの砂粒を含む)	良好	①橙色7.5YR7/6 ②黄褐色7.5YR7/8	端部は外側に突き出し、端面はナデでM字。調整は外面は磨減して不明、内面はナメナヘ。	
80	13	円筒埴輪 口縁部	60号墳	器壁厚9～12	密(1mmの砂粒を含む)	良好	①明赤褐色5YR5/6、口縁 ハケ部分褐色10YR4/1 ②褐色10YR4/1	端部は外側に突き出し、端面は平坦。内外面ともに斜めハケ。	
81	14	円筒埴輪 タガ	60号墳	タガ高10、 器壁厚12	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	①橙色5YR6/8 ②橙色5YR6/8	タガの端面は丸い。内面は磨減で調整不明。	
82	14	円筒埴輪 タガ	60号墳	タガ高5、 器壁厚15～17	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①明赤褐色5YR5/6 ②橙色5YR6/6	タガは断面方形で、端部はM字。外面ナメナヘ、内面はナデ、ヨコナメナヘ。	
83	14	円筒埴輪 胴部	60号墳	器壁厚12	密(1mmの砂粒を含む)	良好	①橙色2.5YR6/6 ②橙色2.5YR6/6	外面はナメナヘの後、ヨコハケ。内面は磨減するが、ナデ調整。	
84	14	円筒埴輪 胴部	60号墳	器壁厚12	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	①橙色5YR6/6 ②橙色5YR6/8	外面はナメナヘの後、ヨコハケ。内面はナデと指オサエ。	
85	14	円筒埴輪 基部	60号墳	基部高68、 厚13～6	密(1mmの砂粒を含む)	良好	①橙色5YR6/8 ②橙色5YR6/8	基部倒立再調整あり（外面は倒立ナメナヘ、内面は上部がナデ、端部は指オサエ）、端部のカットはなし。	出雲1・2期
86	14	円筒埴輪 基部	60号墳	基部高55、 器壁厚17～3	密(1mm以下の砂粒を含む)	不良？ 断面は黒い	①明赤褐色5YR5/8 ②橙色5YR6/8	基部倒立再調整あり（外面は倒立ナメナヘ、内面は指オサエ）、端部のカットはなし。	出雲1・2期
87	14	円筒埴輪 基部	60号墳	基部高63以上、 厚15～7	密(1mmの砂粒を含む)	良好	①明赤褐色5YR6/8 ②橙色5YR6/8	基部倒立再調整あり（磨減で調整痕みえないが、平滑なので、板状工具とナデか）。端部は平坦だがカットではない。	出雲1・2期
88	14	円筒埴輪 基部	60号墳	基部高55以上、 器壁厚17～5	密(1mmの砂粒を含む)	良好	①橙色7.5YR7/6 ②黄褐色7.5YR7/8	外面は1次ナメナヘあり。基部倒立再調整あり（外面は板工具のオサエか、内面は角柱状工具の当て具痕あり）。端部はカットなし。	出雲1・2期
89	14	土師器甕 頸部	61号墳	器壁厚3～6mm	やや粗(1mm大の砂粒を含む)	良好	①浅黄褐色10YR8/4 ②浅黄褐色10YR8/4	口縁部がカーブをして大きく開く。頸と体部の境は鋭く屈曲する。磨減で調整は不明。	
90	14	土師器壺 口縁部	61号墳	器壁厚9	やや密(1mm程度大の砂粒を含む)	不良	①にぶい黄褐色10YR7/4 ②にぶい黄褐色10YR7/4	口縁端部は外側に肥厚し、端面はやや平坦。内面は凹み薄くなる。	
91	14	円筒埴輪 タガ	62号墳	タガ高4、 器壁厚12～8	やや粗(1mm程度の砂粒を若干含む)	良好	①橙色7.5YR7/6 ②橙色7.5YR7/6	タガは扁平で断面台形。全面磨減で調整不明。	

挿図 番号	写真 図版	種別・器種 部位	採集古墳	法量()は 復元値、単位mm	胎土	焼成	色調 (①外面、②内面)	調整・手法の特徴	時期・備考
92	14	埴輪	67号墳	器壁厚15	やや密(2mm程度大の小石を含む)	良好	①にぶい黄褐色10YR7/4 ②にぶい黄褐色10YR7/4	磨滅のため内外面の調整不明。内面は指オサエの痕跡者。	
93	14	円筒埴輪 タガ	61号墳北 方	タガ高10、 器壁厚12~15	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①橙色7.5YR7/6 ②橙色7.5YR7/6	タガは略面台形。端面は平ら。内面はナデ調整。	
94	14	円筒埴輪 基部	61号墳東 の平坦地	器壁厚14~16	やや粗(3mm大の小石を含む)	良好	①橙色7.5YR7/6 ②橙色7.5YR7/6	基部倒立再調整あり(外面は1次タテハケの後、板状工具でオサエたか。内面は指オサエとナデの痕あり)	出雲1・2期
95	14	須恵器大甕 体部	61号墳の 南平坦地	器壁厚12	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①灰色Hue6/1 ②灰色Hue6/1	外面はタタキ後にカキメ、内面は同心円文をわずかに消す。	
96	14	弥生土器甕 頸部	62号墳の 北	器壁厚4~6.5	やや密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	①にぶい黄褐色10YR7/3 ②にぶい黄褐色10YR7/3	複合口縁。頸部は短く屈曲する。内外面ヨコナデ。	弥生時代



写真図版 3 東百塚山71号墳表採遺物



写真図版 4 東百塚山108号墳表採遺物



写真図版 5 西百塚山2号墳出土遺物(1)



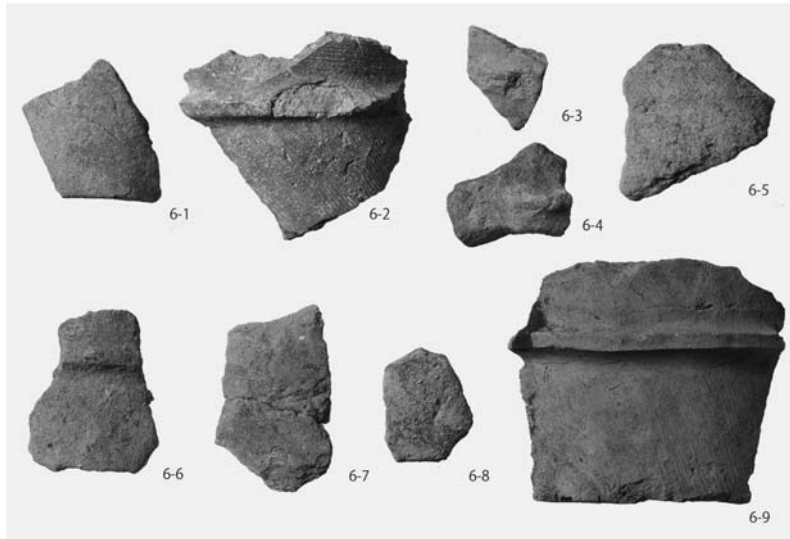
写真図版 6 西百塚山2号墳出土遺物(2)



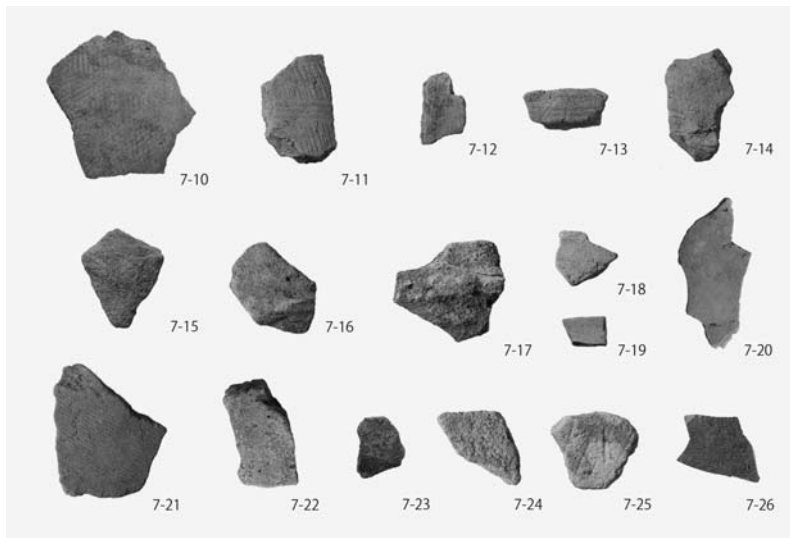
写真図版 7 西百塚山20号墳表採遺物(1)



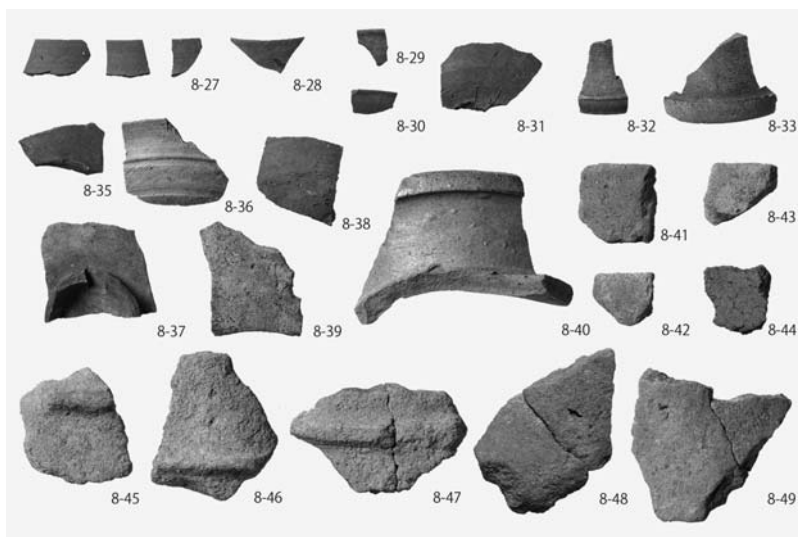
写真図版 8 西百塚山20号墳表採遺物(2)



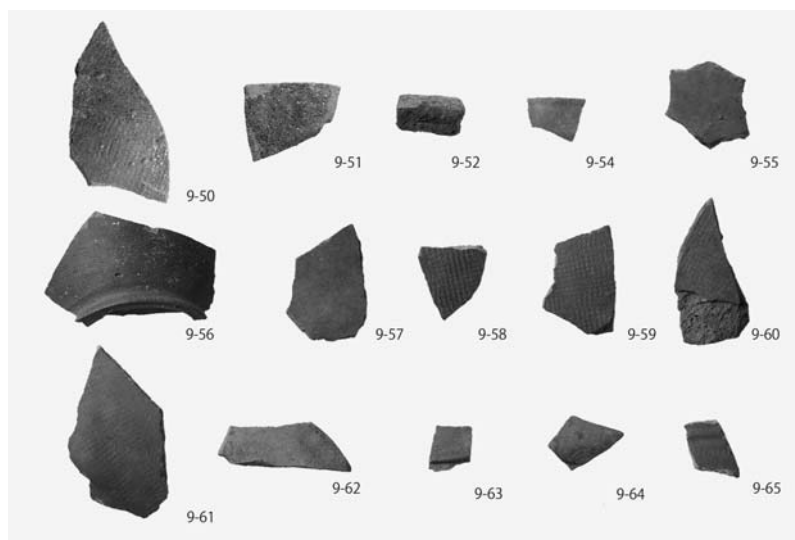
写真図版 9
東百塚山古墳群表採遺物（1）



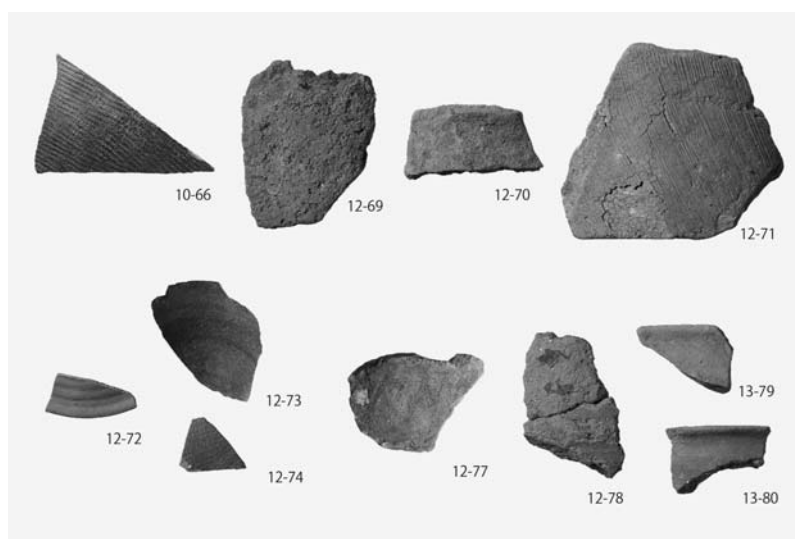
写真図版10
東百塚山古墳群表採遺物（2）



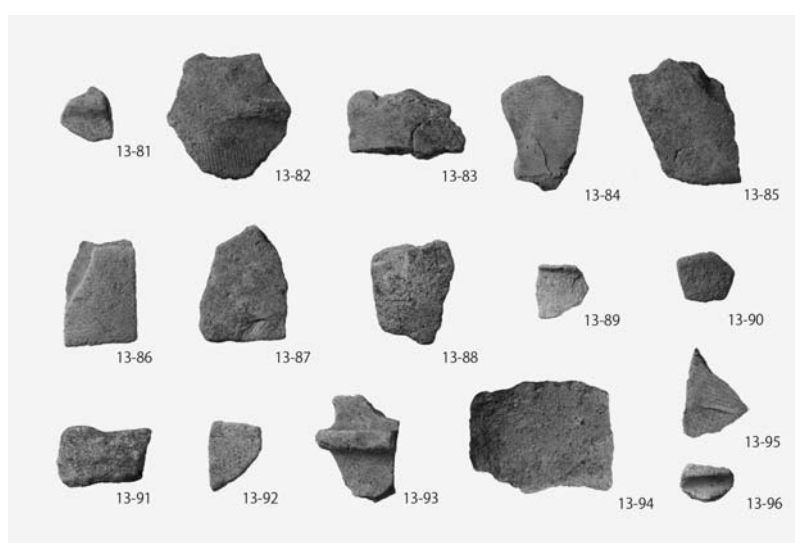
写真図版11
東百塚山古墳群表採遺物（3）



写真図版12
東百塚山古墳群表採遺物 (4)



写真図版13
西百塚山古墳群表採遺物 (1)



写真図版14
西百塚山古墳群表採遺物 (2)